

第2次田辺市地域生涯学習計画 (後期計画)

令和5年3月
田辺市教育委員会
生涯学習課

◆目 次

1. はじめに.....	4
2. 第2次田辺市地域生涯学習計画（後期計画）	
東部公民館.....	6
西部公民館.....	10
芳養公民館.....	14
秋津公民館.....	18
新庄公民館.....	22
長野公民館.....	26
秋津川公民館.....	30
中芳養公民館.....	34
龍神公民館.....	38
大塔公民館.....	42
公民館機構図.....	46
中部公民館.....	8
南部公民館.....	12
稲成公民館.....	16
万呂公民館.....	20
三栖公民館.....	24
上秋津公民館.....	28
上芳養公民館.....	32
ひがし公民館.....	36
中辺路公民館.....	40
本宮公民館.....	44
3. 資料編（策定会議報告・地域シンポジウム報告）	
東部公民館.....	48
西部公民館.....	56
芳養公民館.....	64
秋津公民館.....	72
新庄公民館.....	80
長野公民館.....	88
秋津川公民館.....	96
中芳養公民館.....	104
龍神公民館.....	112
大塔公民館.....	120
中部公民館.....	52
南部公民館.....	60
稲成公民館.....	68
万呂公民館.....	76
三栖公民館.....	84
上秋津公民館.....	92
上芳養公民館.....	100
ひがし公民館.....	108
中辺路公民館.....	116
本宮公民館.....	124

はじめに

1. 第2次田辺市地域生涯学習計画後期計画 策定の趣旨

本市では、平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）までの10年間を計画期間とする「第2次田辺市生涯学習推進計画」を策定し、「人をはぐくみ 人をつなぎ 地域を創る 生涯学習のまち田辺」を基本理念として、市民のだれもが、いつでも、どこでも、自らの意思と選択によって学ぶことができるとともに、学びを通じて人と人とがつながり、学びによって得た知識や技能、人とのつながりを地域づくりに生かすことができる生涯学習のまちづくりを進めています。

この「第2次田辺市生涯学習推進計画」にもとづいて、市民の最も身近な社会教育施設であり、地域の学習・交流の拠点、地域づくりの拠点である公民館が、地域の方々とともに生涯学習のまちづくりを進めていくため、各公民館において「田辺市地域生涯学習計画」を策定し取組を進めています。そうした中、現在の「第2次田辺市地域生涯学習計画前期計画」が令和4年度末をもって終了することから、これまで進めてきた各公民館での活動の成果を確認するとともに、現在策定中の「第2次田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画」との整合を図りながら、各地域の課題解決や、求められる地域像の実現に向けて、各公民館において、これからの活動の方向性と具体的な事業を示すための計画として、第2次田辺市地域生涯学習計画後期計画（以下「後期計画」という。）を策定するものです。

2. 後期計画策定の経過

後期計画の策定にあたっては、令和3年度において、田辺市社会教育委員会議との連携のもと、地区公民館ごとに「地域シンポジウム」を開催し、その時点での前期計画の実施状況を確認するとともに、公民館主事が作成した「地域カルテ」を元に地域の現状と課題や特性について地域住民の方々と共通理解を図ったうえで、今後の地域の目標や課題について、グループワーク等により検討を行いました。令和4年度においては、各公民館で、協力委員会や計画策定委員会といった組織体制のもと、地域課題の解決や目指すべき地域像について検討し、公民館が果たす役割について方向性を定め、実施すべき事業を掲げ、後期計画として策定しました。

3. 後期計画の期間

田辺市地域生涯学習計画は、「田辺市生涯学習推進計画」と整合を図ったものであり、後期計画の計画期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。なお、各公民館の重点アクションプランについては、毎年、各公民館において検証し、必要に応じて見直しを行うことを可能としています。

第2次田辺市地域生涯学習計画 (後期計画)

東部公民館

1. 地域の現状

東部公民館は、昭和 31 年に設置され、田辺第二小学校区内の神子浜・文里・東山・上浜田の 4 町内会で構成され、館区内の世帯数は約 2,200 世帯、人口約 4,200 人（令和 4 年 9 月末現在）の地域です。

当地域が抱える課題としては、主に人口減少と防災対策があります。館区内の人口は平成 10 年度以降減少傾向にあり、館区内の田辺第二小学校の児童、東陽中学校の生徒数は年々減少していく一方で、高齢化率は上昇傾向にあります。また、核家族化や生活スタイルの変化等により地域の連帯感も希薄化し、町内会をはじめ、各種団体のリーダー層を担う人材の不足が懸念されています。

防災対策については、館区内のほとんどの地域が東南海・南海地震の津波浸水被害想定区域に該当するため、災害に対する住民の危機管理意識は比較的高く、各町内会においても自主防災組織の結成をはじめ防災訓練や防災に関する学習会を実施しています。

当初、東部公民館専用の建物はありませんでした。平成 21 年度に東陽中学校の新築工事に伴い近畿地方で初めてとなる中学校との併設公民館として新たに開設しました。開設以降は、地域の方々のサークルや町内会活動等での利用をはじめ、学校の授業やクラブ活動においても利用されています。

2. 目指すべき地域像

- ・地域への関心を高めるとともに、つながりを密にする地域コミュニティを目指します。
- ・若い世代を中心に地域を支えるリーダーを育てるとともに、多くの住民が地域の活動に関わりサポートできる体制の構築を目指します。
- ・地震、津波や大雨による洪水等、自然災害への対応力を強化し、災害からの被害をできる限り抑え、災害に強い地域を目指します。
- ・高齢化が進んでいることを踏まえ、悪徳商法、詐欺等の被害に合わないよう消費者被害の予防と不審者等に対する防犯意識の高い地域を目指します。
- ・通学路での交通事故防止等、子供が安全に暮らせる地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・公民館施設を地域活動の拠点施設とし、4 町内会合同事業の実施で、地域間、世代間の交流を図り、連帯感の強化や活性化につながるような機会を提供します。
- ・学校と地域が連携・協力し、地域社会全体で子供を育てる環境を整え、学社融合を推進します。
- ・地域を支える人材の掘り起こしとリーダーとなる人材の育成に努めます。
- ・各町内会と連携して、防災、防犯等の各種学習会を実施し、地域力の強化を図ります。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 地域間交流の促進

対策事業	事業の目的
各種公民館事業	地域間及び世代を超えた交流の実現
事業実施後の効果予測	
・ 地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・ 住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。 ・ 事業を楽しみにしている住民の生きがいくりの場を提供することができる。 ・ 全ての人に生涯学習の機会を提供することにつながる。	

② 学社融合の更なる推進

対策事業	事業の目的
併設型公民館を活用した各種事業	学校、地域、保護者、公民館の協働（地域全体）により子供と大人が学び合う
事業実施後の効果予測	
・ 世代を超えた交流の実現と相互の教育力の向上が図られる。 ・ 「地域と共に学び合う学校づくり」が実現する。 ・ 異なる年齢・立場の人が交流することによって、各々がもつ得意な技能や知識を共有することができる。	

③ 防災対策面の強化・充実

対策事業	事業の目的
防災訓練及び防災に関する学習会	防災意識の向上と地域の絆づくり
事業実施後の効果予測	
・ 住民の防災意識の向上と連帯感の強化につなげることができる。 ・ 災害時におけるリーダー層の育成につながる。 ・ 災害時の自助、共助、公助のあり方を正しく理解することができる。 ・ 子供たちを交えた学習機会をもつことで、学社融合の視点による防災学習の推進が実現する。	

中部公民館

1. 地域の現状

中部公民館は、中心市街地に位置し、中部ブロック（14 町内会）と湊西部（6 町内会）の 20 町内会を対象地域とする公民館で、館区内の世帯数は約 2,900 世帯、人口約 5,700 人（令和 4 年 9 月末現在）です。かつて、田辺町を構成した田辺 13 町の大部分を占める中心部は田辺城の大手、まさに田辺発祥の核であり、商業地、住宅地として発展し栄えてきました。

また、地域のもう一つの顔は J R 紀伊田辺駅周辺繁華街を中心とした商業地域です。この地域は、昭和初期の国鉄紀勢西線開通以後、大きな発展を見た商業地、住宅地ですが、とくに鉄道開通とともに、そして終戦とともに駅前商店街が発展し、湊本通、北新町へと続く商店街の流れが生まれました。

しかし、車社会の進展や、郊外型大型店舗の出現などに伴って、これら中心市街地が大きく変化してきていることが実態として見られます。さらに、少子高齢化が比して著しい中に加えて、東日本大震災以降に見直された「津波ハザードマップ」の公表等、時代の変遷に伴う人心の変化などが若者を中心に郊外転居あるいは市外転出に拍車をかけることになり、まちづくりを難しくしています。

こうした地域にあって中部公民館は、「人をはぐくみ、人をつなぎ、地域を創る、生涯学習のまち田辺」を基本理念とする、田辺市がめざす生涯学習への活動の展開のなかで、地域の生涯学習活動の支援、地域活動及び事業への積極的協力を図り、地域課題を解決していくために地域コミュニティ力を高め、地域のつながりを広げる役割を担っています。

2. 目指すべき地域像

- ・防災減災に地域全体で取り組み、地域全員が安心して住み続けられるまちづくりを目指します。とりわけ、町内会等、地域の団体を支える人づくりが必要です。
- ・地域全体が一体となれる人間関係を構築するまち、みんながあいさつを交わす、笑顔が溢れるまちづくりを目指します。
- ・伝わる歴史・伝統文化を後世に継承できる地域を目指します。とりわけ、田辺祭など伝統行事を支える人づくりが必要です。

3. 公民館の果たす役割

中部地域に住む自分たちが学ぶことによって、気づいたことに行動を始める。その拠点として存在する中部公民館は、地域の学習活動を支援し、協力しつつ、住み続けるよろこびを感じる地域づくりに資するために今日的な課題解決に向け、次の諸点を中心に取り組みます。

- ・防災意識及び人権意識の向上につながる取組を展開する。
- ・地域の歴史的な魅力に着目した取組を展開する。
- ・学校・家庭・地域の連携を密にするとともに、地域資源を活用した学社融合の取組を展開する。
- ・地域を知る機会を増やす取組を展開する。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 防災学習の推進

対策事業	事業の目的
防災講演会・学習会	防災意識の向上
事業実施後の効果予測	
・多様な知識を得ることで、災害をいたずらに恐れることを防ぐことができる。 ・被災時の自助・共助・公助の役割を正しく理解することができる。 ・避難所運営の中核を担う住民を育成することができる。	

② 交流の促進

対策事業	事業の目的
体育・文化事業	地域間・世代間の交流
事業実施後の効果予測	
・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・事業を楽しみにしている住民の生きがいづくりの場を設けることができる。 ・住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。	

③ 学習機会の提供

対策事業	事業の目的
現代的課題に対する講座・学習会	住民の学習ニーズへの対応
事業実施後の効果予測	
・健康講座を開催することで、健康に対する意識の向上を図ることができる。 ・特殊詐欺等の被害防止やスマートフォンの使い方など、情報化社会に応じた学習会を開催することで、防犯意識を高め、高齢者の孤立を防ぐことができる。 ・地域の歴史・伝統に関する学習会を開催することで、郷土愛を育むことができる。	

西部公民館

1. 地域の現状

西部地域は、北は田辺スポーツパーク周辺の丘陵地、東は会津川、南は田辺湾、西は芳養湾に面しており、天神、古尾、目良、目良団地、益穂、江川、江川榊潟、西郷、御所谷、立戸、シーサイド天神崎の11町内会で構成し、世帯数2,731世帯、人口4,976人（令和4年9月末現在）であり、人口減少及び少子高齢化が進んでいる地域です。

地域には寺社仏閣をはじめ、出立王子跡などの史跡や文化財も残された地域です。また、合気道の創始者である植芝盛平翁の生誕地や海岸部には、ナショナルトラスト運動で有名な天神崎があります。

地域には、11町内会で構成する西部町内会連絡協議会をはじめ、西部地区防災訓練実行委員会、西部老人クラブ、西部子どもクラブ等の組織があり、各種事業を開催しています。

公民館には公民館専用の建物がなく、田辺市立西部センターを公民館施設として位置づけ、平成23年度から平成25年度までの3年間、田辺第三小学校と連携し、西部地域共育コミュニティ事業に取り組み、平成28年度にはこれまでの子供から大人までの交流を促進する取組が評価され、文部科学大臣から表彰を受けました。

平成30年度には、田辺第三小学校、明洋中学校に学社融合推進協議会が設置され、学校と公民館が連携し、地域の特色を生かした学社融合の取組を実践しています。

また、西部センターや天神児童館と協力し、近い将来、発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えた避難訓練、防災講演会や学習会をはじめ、人権学習会などの事業を開催しています。

2. 目指すべき地域像

- ・地域を支えるリーダーを育成するとともに、多くの住民が地域活動に参画しやすい環境を整備し、SDGsの基本理念の1つである「誰もが住み続けられるまちづくり」を目指します。
- ・台風や地震、津波などの自然災害から身を守る対応力を身につけ、自助、共助、公助の理念のもとお互いに助け合い災害に強い地域を目指します。
- ・子供たちが安心・安全に遊べる場所や機会をつくるとともに、子供も大人も常に笑顔のある地域を目指します。
- ・子供たちが自分たちの住む地域に愛着と誇りを持てる地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・学校、家庭、地域、西部センター、天神児童館と連携を図り、地域の特色を生かした学社融合の取組を推進します。
- ・各種行事や災害時にリーダーとなり得る人材の発掘と育成に努めます。
- ・人と人とのつながりを大切にし、世代を超えた交流が図れる地域を目指します。
- ・あらゆる人権課題の解決のため、関係機関と連携し人権学習会等を開催します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 防災対策面の強化・充実

対策事業	事業の目的
防災講演会、学習会、避難訓練	防災意識の向上と地域の絆づくり
事業実施後の効果予測	
・住民が常に防災意識を持つことで、災害時の迅速な避難につながる。 ・防災講演会や学習会で学ぶことで、地域の防災力の向上につながる。 ・学びを生かすことで、災害時の混乱の軽減や避難所の円滑な運営につながる。	

② 人材の発掘と育成

対策事業	事業の目的
各種リーダー研修会	行事や災害時におけるリーダーの育成
事業実施後の効果予測	
・行事や災害時にリーダーシップを発揮する人材の育成につながる。 ・新たな人材を発掘し、育成することでこれまで続けてきた事業を継承することが可能となる。 ・事業を通じて、若い世代の住民が地域の活動に関心を持つきっかけになる。	

③ 地域の交流促進

対策事業	事業の目的
西部ふれあい祭り・天神児童館まつり	世代を超えた交流の促進
事業実施後の効果予測	
・世代を超えた交流を促進することで、地域住民の絆が強まる。 ・行事を通じて自分たちが住む地域への愛着と誇りが生まれる。 ・行事を通じて次世代を担うリーダー層の発掘と育成につながる。	

南部公民館

1. 地域の現状

南部公民館は平成元年に設置され、田辺市の公民館の中では最も新しく、区域は磯間、末広町、東本町、神田、新屋敷町、湊東部、若宮、弁慶町、宝来町、宝来団地、ファミリーヴィラ、扇ヶ浜の12町内会で構成され、館区内の世帯数は約2,600世帯、人口は約4,500人（令和4年9月末現在）の地域です。

南部公民館創設までは東部公民館区に属していたため、今でも東部公民館とのつながりは深く、各種事業においても両公民館で連携した取組を実施しています。

また、南部公民館には専用の建物がないことから、南部センターや末広児童館、各町内会館等において定期講座や各種事業を実施し、地域の教育力の向上や健康増進、防災意識の向上を図り、生活文化の振興や社会福祉の増進に努めています。

一方で、南部公民館区域では町内会や子ども会離れが年々進んでおり、町内会役員の高齢化や、地域の伝統を受け継ぐ若年層の不足などが課題となっています。

2. 目指すべき地域像

- ・地域への関心を高めるとともに、つながりを密にする地域コミュニティを目指します。
- ・若い世代を中心に地域を支えるリーダーを育てるとともに、多くの住民が地域の活動に関わりサポートできる体制の構築を目指します。
- ・地震、津波や大雨による洪水等、自然災害への対応力を強化し、災害からの被害をできる限り抑え、災害に強い地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・地域のことについて話し合える場を提供します。
- ・各種団体と連携し、人と人とのつながりを築く取組を展開します。
- ・人材の掘り起こしと人材育成に努めるとともに、活躍できる場を提供します。
- ・避難訓練や防災学習会を実施し、防災意識の向上を図ります。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 地域間交流の促進

対策事業	事業の目的
各種公民館事業 (地域、世代のニーズに対応した事業)	地域間及び世代を超えた交流の実現
事業実施後の効果予測	
・ 地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・ 住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。 ・ 事業を楽しみにしている住民の生きがいくりの場を提供することができる。 ・ 各世代のニーズに対応した事業を開催することで、若い世代の方々が公民館事業に参画しやすい環境ができる。	

② 学社融合の更なる推進

対策事業	事業の目的
併設型公民館を活用した各種事業	学校、地域、保護者、公民館の協働（地域全体）により子供を育てる
事業実施後の効果予測	
・ 世代を超えた交流の実現と相互の教育力の向上が図られる。 ・ 「地域と共に学び合う学校づくり」が実現する。 ・ 地域全体で子供たちを育てていくという意識の向上につながる。	

③ 防災対策面の強化・充実

対策事業	事業の目的
防災訓練及び防災に関する学習会	防災意識の向上と地域の絆づくり
事業実施後の効果予測	
・ 住民の防災意識の向上と連帯感の強化につながる。 ・ 災害時におけるリーダー層の育成につながる。 ・ 災害時の自助、共助、公助のあり方を正しく理解することができる。 ・ 子供たちを交えた学習機会をもつことで、学社融合の視点による防災学習の推進が実現する。	

芳養公民館

1. 地域の現状

芳養公民館地域は、田辺市の最西部に位置し、北側には緑豊かな山々が、南側には芳養湾が広がり、松原・井原・大坊・団栗・崖・境・田中・田川・芋・明洋・元町明洋団地・芳養団地・青葉台の13町内会で構成され、世帯数約2,570戸、人口約5,500人の住民が暮らす地域です。（令和4年9月末現在）

古くはシラス漁などの漁業従事者と、梅やミカンなどの農業従事者の集落に分かれていましたが、昭和40年代から新興住宅地域の形成により、様々な仕事に従事される人々が混在する地域となりました。

芳養公民館は、生涯学習や交流の拠点として、体育・文化事業や各種学習会、講演会を開催しており、サークル活動も活発に行われています。また、館区内にある保育所（芳養・はやざと・こどもの部屋）、小学校（芳養・大坊）、中学校（明洋）や芳養児童センター等とも連携を図り、特に小・中学校との学社融合の推進に力を入れており、平成24年度には、公民館活動のほか、芳養ふれあい教室などの学社融合事業が高く評価され、文部科学省より『優良公民館』として表彰されました。

2. 目指すべき地域像

- ・体育事業や文化事業を通して地域間、世代間の交流を促進し、人と人とのつながりの強い地域を目指します。
- ・災害や防災意識を高め、災害時にも助けあえる地域を目指します。
- ・人権を尊重し、一人ひとりが大切にされる地域を目指します。
- ・地域の人々が学校に関わり、子供たちが健全に育つ地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・地域における生涯学習活動の拠点として、地域間交流、世代間交流を促進します。
- ・災害や防災意識を高め、災害発生時により的確な行動がとれるよう、防災学習会等を開催します。
- ・生涯学習（人権）推進員や田辺市人権擁護連盟理事等と連携を図り、人権学習会等を開催します。
- ・学社融合の推進により、子供たちを地域で育て、青少年の健全育成に努めます。学校、家庭、地域の連携を図り、地域の特色を生かした学社融合の取組を推進します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 交流の促進

対策事業	事業の目的
体育事業・文化事業	地域間・世代間交流の促進
事業実施後の効果予測	
・ 地域や世代を超えて交流を図ることにより、つながりを強めることができる。 ・ 健康増進意識や学習意欲の向上につながる。	

② 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
芳養ふれあい教室ほか学社融合事業	学校と地域とのつながりを深める
事業実施後の効果予測	
・ 地域の方と子供たちとの「ナナメ」の関係ができる。 ・ 地域の方が学校に関心を持つようになる。 ・ 子供たちが地域と関わるきっかけとなる。 ・ 地域の方の生きがいにつながる。	

③ 学習会等の開催

対策事業	事業の目的
人権学習会、防災講演会ほか学習会	人権意識や防災意識の向上 地域住民の学習ニーズへの対応
事業実施後の効果予測	
・ 人権学習会や防災講演会を開催することで、地域住民の人権意識や防災意識を高めることができる。 ・ 教育、環境、情報、交通、少子高齢化等の分野において、地域のニーズに合った学習会を開催することにより、住民の学習意欲を高めることができる。	

稲成公民館

1. 地域の現状

稲成地域は市街地からやや西部に位置し、稲成川及び荒光川流域の稲成町と昭和 38 年に宅地造成されたむつみの 2 つの町内会で構成されており、世帯数は 1,488 世帯、人口は 3,225 人（令和 4 年 9 月末現在）の地域です。人口は一時期増加傾向にありましたが、平成 17 年（2005 年）以降は、緩やかな減少が続いています。

この地域は、面積の大半が山林で梅やみかんなどの果樹栽培をはじめとする農業が盛んですが、十数年前から平野部に大型商業施設や各種小売店、飲食店などが出店し、一戸建て住宅やマンションなどの共同住宅の建築が進み、地域外からの転入者も増え目覚ましい変貌を遂げました。

また、平成 19 年 11 月には阪和自動車道の南紀田辺 I.C が完成し、平成 27 年 8 月には近畿自動車道紀勢線がすさみ町まで開通するなど道路網の整備も急速に進みました。

また、地域内には国指定史跡の「高山寺貝塚」をはじめ、国・県・市合わせて 17 の指定文化財や田辺市随一の桜の名所である「動鳴気峡」など多くの歴史や文化、自然に恵まれた地域です。

これまで当地域には、公民館の専用施設がなく稲成町民センターや稲成小学校で各種公民館事業を実施してきましたが、この度念願の稲成公民館が完成しました。

今後は公民館を拠点として、地域の方々の学びや交流を促進し、地域の活性化につなげてまいります。

2. 目指すべき地域像

- ・住民同士のつながりを大切にし、世代を超えた交流の促進を図り、転入された住民も気軽に地域に溶け込める環境を整備し、SDGs の理念の 1 つである「誰もが住み続けられるまちづくり」を目指します。
- ・災害時には、「被災しても決して稲成地域から一人の犠牲者も出さない」を目標に防災意識を高く持ち、自助・共助・公助の理念のもとお互いに助け合うことのできるまちを目指します。
- ・地域の歴史、文化、自然を大切にし、継承していくことのできるまちを目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・公民館施設を人づくり・地域づくりの拠点とし、世代を超えた交流を図り、住民の連帯感の強化と地域の活性化につながる機会を提供します。
- ・学校、家庭、地域が一体となって連携・協力し学社融合を推進します。
- ・防災意識の向上のための取組を行います。
- ・各種行事や災害時に地域を支えるリーダーとなる人材の育成に努めます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 交流事業の推進

対策事業	事業の目的
各種公民館事業	世代を超えた交流の促進と地域の活性化を図る
事業実施後の効果予測	
・各種事業を通じて世代を超えた交流を図ることで、住民の連帯感が生まれる。 ・地域づくり・人づくりの拠点施設である公民館が完成したことで、今まで以上に交流の機会を設けることができる。 ・各種事業を実施することで地域のリーダーとなり得る人材の育成につながる。	

② 防災対策面の強化・充実

対策事業	事業の目的
防災学習会・防災訓練等	防災意識の向上と地域の絆づくり
事業実施後の効果予測	
・地域住民の防災意識の向上と自助・共助の理念による相互の連帯感の強化につながる。 ・災害時におけるリーダーの育成と自主防災組織の活性化につながる。 ・自助・共助・公助の在り方を正しく理解することができる。 ・地域の新たな課題を発見し、新しい学びを生みだすことができる。	

③ 学社融合の更なる推進

対策事業	事業の目的
地域の特性を生かした事業	子供たちと地域住民が共に学びあうことで健全育成と地域の活性化につなげる
事業実施後の効果予測	
・子供たちと地域住民が共に学びあう中で、世代を超えた交流を図ることができる。 ・地域住民が学校の教育活動に関わることで、子供たちにとって多様な体験の機会が増えるとともに、自分たちが住む地域を知り、郷土を愛する心が育まれる。 ・地域の住民が自らの経験や知識を子供たちの教育に生かすことで、自己実現や生きがいづくりにつなげることができる。 ・事業を通じて学校が地域に開かれ、「地域と共にある学校づくり」が実現する。	

秋津公民館

1. 地域の現状

秋津地域は、右会津川中流域に広がる地域に位置し、万葉以降幾多の詩歌に詠まれ、また、多くの史跡等が残る歴史深い地域です。秋津地域は、5つの地区（大西、田尻、青木、矢矧、西八丁）からなり、令和4年9月末現在、世帯数 1,425 世帯、人口 3,213 人の方が生活しています。古くは田畑が広がる農村地域でしたが、近年では宅地造成が進み、マンション等が建設され新しく移り住む人が多い地域です。また、子供の人数も多い三世代が調和した地域でもあります。高速道路や県道の整備、河川の整備等が行われて、地域の姿は変わり続けています。地域内では、町内会や子どもクラブなど各種団体が様々な活動を行っていますが、近年は、町内会や子ども会への加入率が低下しており、各種行事への参加者が減少するとともに、指導者も不足しています。また、若者が地元から離れている傾向があることや、農業従事者の高齢化や後継者不足など様々な課題があります。

秋津公民館は、秋津多目的研修センターを拠点施設として活動しており、秋津・万呂地域の各種団体の協力のもと、地域と学校の協力・連携を推進している会津小学校学社融合推進協議会及び高雄中学校学社融合推進協議会の取組にも協力しています。その中で、両地域住民や子供たちとの交流を深めることを目的に、毎年開催しております『秋津・万呂盆踊り大会』は、地域行事として定着させることができました。また、七夕祭りや餅つきなど伝統的な行事を開催し、三世代交流に取り組むなど、住民の学習ニーズや地域課題に対応した事業展開に努めています。

2. 目指すべき地域像

- ・町内会と連携し、自主防災組織を活用した防災訓練や体験型防災学習を実施することで、防災についての意識を高め、災害時でも共に助け合える地域づくりを目指します。
- ・町内会をはじめとする地域団体と協力し合い、つながりの強い地域を目指します。
- ・世代を超えた交流ができ、住みやすい・住みたくなる地域づくりを目指します。
- ・多くの住民が地域の活動、行事に参加する地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・町内会と協力・連携し、防災意識向上のための取組を行います。
- ・公民館が地域の拠点となり、世代に関係なく交流できる場を提供します。
- ・地域のニーズを的確に把握し、地域のことに興味や関心を持てるような取組を展開します。
- ・新しい人材の発掘、育成に努め、地域を支えるリーダーが活躍できる場を提供します。
- ・町内会をはじめ各種団体と連携し、人と人とのつながりを築く取組を展開します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 防災学習の推進

対策事業	事業の目的
防災学習会・体験型防災事業	防災意識の向上・住民同士の連携づくり
事業実施後の効果予測	
・体験型の防災訓練を実施することで、新たな課題や気づき、災害時への対応（長期的も含め）を学ぶことができる。 ・防災意識を向上させ、地域住民自らがどうすべきか考えるきっかけとなる。 ・地域の実情に応じた防災学習会を開催することで、いざというときの地域の連携力を高める。	

② 人材育成

対策事業	事業の目的
地域人材が活躍できる場の提供 (学社融合の推進)	地域内の人材の把握と確保 地域を担うリーダーの育成 「ボランティア人材バンク」の活用
事業実施後の効果予測	
・地域人材を把握することで、各事業を通してつながりを生むきっかけとなる。 (地域人材の把握と確保には、地域住民のつながりを生むきっかけとなる事業・行事は必須である。) ・公民館活動、学社融合事業等で人材が必要な場合の基礎となる。 ・地域人材が、公民館活動へ参加するきっかけとなる。	

③ 防災対策面の強化・充実

対策事業	事業の目的
公民館を拠点とした住民ニーズに合った講座・学習会等の開催及び広報活動の充実	地域間・世代間の交流 地域の方々のつながりを深める 若い世代への公民館行事の周知
事業実施後の効果予測	
・各世代のニーズに対応した学習会・講座などの事業を開催することで、公民館利用者が増え、世代を超えた交流を図ることができる。 ・若い世代の方々が公民館行事参画のきっかけになる。 ・広く情報発信をすることで、公民館事業を知ってもらい参加者増加につなげる。	

万呂公民館

1. 地域の現状

万呂地区は市街地の東側に位置し、東西 2.7 km、南北約 2.2 km、面積 4.01 km²の左会津川沿いに開けた地域です。万呂、万呂小泉の 2 町内会からなっていますが、もともこの地域は、左会津川流域を中心に発展してきた約 200 世帯の農村地域でした。会津小学校が建設された昭和 30 年代後半以降、宅地開発が進み、さらには、国道 42 号線田辺バイパスや阪和自動車道南紀田辺インターチェンジの開通もあり、商業施設や集合住宅が建設されるなど急速に宅地化、都市化が進んでいます。現在では世帯数約 2,550 世帯、人口約 5,400 人（令和 4 年 9 月末現在）が生活する地域となっています。

人口の増加や個人の考え、価値観が多様化するなど社会環境も変化する中、地域に対する考え方、意識の違いがあり、地域の連帯感が希薄化しつつありますが、地域内では、町内会や子どもクラブなど各種団体が様々な活動に取り組んでいるほか、総合型地域スポーツクラブの「会津スポーツクラブ」が、住民の自主的、主体的な運営により、スポーツを通じた地域のコミュニティづくりに取り組んでいます。また、「万呂の獅子舞保存会」では田辺市無形民俗文化財に指定されている郷土芸能「万呂の獅子舞」の保存活動を通じ、伝統文化の継承にも努めています。

万呂公民館は、地域住民の交流、生涯学習活動の拠点として、体育、文化事業や学社融合事業など様々な事業を実施しているほか、地域の各種団体やサークルなどに学習活動の場を提供しています。

2. 目指すべき地域像

- ・子供たちが安全に生活できる環境をつくるとともに、安心して子育てのできる地域を目指します。
- ・子供からお年寄りまでみんながつながりのある地域を目指します。
- ・自ら防災・減災意識の向上に努め、事故防止・防犯意識を高める地域を目指します。
- ・伝統文化の継承に努め、自然を守る地域を目指します。
- ・文化、体育などの行事に主体的に参加し、活力のある地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・地域のニーズをよりの確に把握し、住民みんなが参加したくなるような取組を企画します。
- ・気軽に入れる公民館づくりを推進し、安心して住民が集える場を提供します。
- ・各種団体、住民同士をつなぐ取組を展開します。
- ・防災、減災及び人権意識の向上につながる取組を展開します。
- ・公民館報などを利用し、地域への情報発信を行います。
- ・学校、地域と連携し、学社融合を進めることで、子供の健全育成と地域の活性化に努めます。
- ・地域の人材掘り起こしと育成に努めるとともに、活躍できる場を提供します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 防災学習の推進

対策事業	事業の目的
防災学習会・防災訓練	防災意識の向上
事業実施後の効果予測	
・住民自ら「命を守る」視点で常に防災を意識することで、災害時の迅速な避難につながる。 ・災害時または避難所運営でリーダーシップを執れる人材の育成につながる。 ・郷土愛の育成につながる。	

② 地域交流の場の提供

対策事業	事業の目的
各種公民館事業（子ども対象事業等）	地域交流の促進
事業実施後の効果予測	
・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・幅広い世代の方々を対象とした各種事業を実施することで住民のつながりが強化され、地域が活性化される。 ・多様な人との新たなつながりが生まれ、そのつながりが広がることで学びや実践活動につながる。	

③ 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
地域人材（人材バンク）を活用した事業	学校、家庭、地域の教育力の向上及び子供の健全育成
事業実施後の効果予測	
・地域住民の方々の経験や知識を学校教育や公民館活動に活かすことで、相互の教育力の向上と住民の方々の自己実現や生きがいがいづくりにつながる。 ・世代間交流につながる事業を展開することで、子供たちの社会性や協調性を醸成することができる。	

新庄公民館

1. 地域の現状

新庄地域は、田辺市の南西部沿岸地域に位置し、西は田辺湾に面し、南を白浜町に、東を上富田町に接しています。かつては新庄村という一つの村でしたが、昭和 29 年に田辺市と合併し田辺市新庄町となりました。その後宅地造成等で新しい住宅地が生まれたことにより、住居表示が実施され、現在は新庄町・神島台・たきない町の 3 町となりました。世帯数 2,916 世帯、人口 5,706 人（令和 4 年 9 月末現在）で「橋谷」「名喜里」「北長」「跡之浦」「内之浦」「田鶴」「北内之浦団地」「神島台」「たきない」の 9 つの町内会を有しています。

古くから山間部では、果樹栽培等の農業、沿岸部では漁業が行われ、商工業では波静かな天然の良港文里湾を有しているため、明治までの塩業、大正時代の貝釦製造、昭和に入ってから製材業が盛んになり、当地方の経済に大きく貢献してきましたが、外材輸入やその後のオイルショックをはじめとする経済状況の変化により、近年製材所の閉鎖が続いています。

また、価値観の多様化や社会環境の変化などにより、地域の連帯感や集団共同行動への対応意識が希薄化してきており、町内会や公民館をはじめ地域行事への参加者の減少や固定化する傾向がみられるなど、各種団体の役を担ってくれる人材が少なく高齢化してきています。

一方、たきない町・内之浦の開発地域では、美術館、情報交流センターBig-U（学びの丘・図書館など）、新庄総合公園、干潟親水公園などが周囲の自然と調和し、学び・遊び・憩い・安らげると多くの市民が集い賑わいを見せています。

加えて、国指定の天然記念物である神島や鳥ノ巣半島泥岩岩脈をはじめ、新庄ぎおんさんの夜見世・獅子舞・杜氏唄など、自然・歴史・伝統的民俗文化などが数多く残されています。

新庄公民館は、国・県の補助金や財団法人新庄愛郷会の支援により、昭和 60 年に館区の中心地に建設されました。

平成元年には、地域文化の掘り起こしの活動などにより「優良公民館」として文部大臣表彰を受賞するなど、新庄地域の生涯学習の拠点として活動しています。

2. 目指すべき地域像

- ・ 大自然災害への備えとして災害への対応力を高めます。
- ・ 希薄化してきている地域への関心を高めるとともに、コミュニティの活性化を図ります。
- ・ 新庄地域全体で子供たちを育てる意識を高め、その取組を進めます。
- ・ 子供たちが将来、地元に残りたい、帰ってきたいと思えるような地域を目指します。
- ・ 若い世代を中心に地域を支えるリーダーを育てるとともに、多くの住民が地域の活動に関わるような仕組みを築きます。
- ・ 地域にある自然・歴史・伝統的民俗文化・伝統産業などの継承、保存、啓発に努めます。
- ・ 田辺市で一番住みやすい町を目指し、新庄地域の住民であることを誇りに思えるようにします。

3. 公民館の果たす役割

- ・学校、家庭、地域の連携を図り、地域の特色を生かした学社融合の取組を推進します。
- ・町内会や各種団体と連携し、人と人のつながりを築く取組を展開します。
- ・人材の把握や育成に努めるとともに、活躍できる場を提供します。
- ・地域のことについて話し合える場を提供し、地域のことを知る機会や、地域資源を活用した取組を展開します。
- ・防災、減災の意識向上への取組を展開します。
- ・子供たちが地域に興味や愛着を持つような取組を展開します。
- ・出前講座や各種大会を設け、多くの地域住民の方が参加出来るような取組を展開します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 防災学習の推進

対策事業	事業の目的
防災学習会	災害時の緊急対応に備える
事業実施後の効果予測	
・災害時の緊急対応に対する予備知識を蓄える。 ・事業を通して地域の関係を密にし、いざというときの地域連携力を高める。	

② 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
「新庄ぎおんさんの夜見世」学習会	学校と地域の連携を強化する
事業実施後の効果予測	
・伝統行事（新庄ぎおんさんの夜見世）を子供たちに伝えることにより、次世代へ継承・保存していく。 ・学校と地域が積極的に関わることにより、地域全体で子供を育てるという意識が高まる。	

③ 交流の促進

対策事業	事業の目的
新庄夏まつり大会	地域交流の場を提供する
事業実施後の効果予測	
・小さな子供から高齢者までが多く集い、楽しむことにより、人的交流を促し、地域の連携力を強化させる。 ・多くの人が集まる場にて、地元の農産物や海産物をPRすることで、郷土についての理解を深めることができる。	

三栖公民館

1. 地域の現状

三栖公民館は、三栖・城山台町内会を館区とする公民館です。三栖町内会は大きく分けて、上三栖・中三栖・下三栖の3つの地区に分かれます。住民は古くからの三栖住民ないし近隣地域からの転入者が大半でしたが、道路の整備、宅地造成など開発が盛んに行われ、田辺市内外を問わず転入者が増加しています。令和4年9月末時点での館区の世帯数は1,879世帯、人口は4,662人で、田辺市内では数少ない人口増加地区となっています。

この地域は古くは三栖村といい、昭和31年9月に牟婁町に合併した後、昭和39年10月に田辺市に合併し現在に至ります。また城山台町内会は、平成12年に田辺市土地開発公社が宅地造成を行い、現在も人口は増え続けています。

三栖公民館は、以前は、田辺市役所の連絡所（古くは支所）を兼ねた約30坪程度の小さな建物があるだけで、十分な活動ができる施設ではありませんでした。平成15年9月16日、地域の要望と熱意により、公民館活動や地域活動の拠点となる施設『三栖コミュニティセンター』が新たに誕生しました。センターは、大集会室、研修室、和室、料理実習室を備え、様々な用途に活用されています。

2. 目指すべき地域像

- ・皆が地域を愛し、心豊かに暮らすことができる、安全・安心な地域を目指します。
- ・地域の未来を担う子供を大切にし、大人も子供も共に育ちあう地域を目指します。
- ・世代を越えた交流ができ、何でも相談しあえる地域であるとともに、転入者がもっと地域に溶け込めるような地域を目指します。
- ・災害時の避難所運営がしっかりとでき、共に助け合える災害に強い地域を目指します。
- ・若い世代が交流できる場を設け、三栖の伝統文化行事を継承できる地域を目指します。
- ・地域の良さ、特色、産業を活かせるまちづくりを進めるとともに、地域の産業の後継者の育つ地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・地域の拠点となり、子供、若者、高齢者等誰でも気軽に集まれ、住民が世代に関係なく交流できるように「場」と「時間」を提供します。
- ・地域の方と連携し、地域の良さ、活動等を情報発信します。
- ・地域のリーダーとなる人材（地域コーディネーター）の発掘や育成を行い、地域の組織や団体を結ぶ役割を担います。
- ・学社融合により地域と学校をつなぎ、子供たちが地域に愛着を持てるような取組を展開します。
- ・防災、人権、健康等について考え、話し合う機会を設けます。
- ・SDGs（持続可能な開発目標）の学習機会提供と生活での実践活動を推進します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 地域間交流の促進

対策事業	事業の目的
史跡の保全 熊野古道（三栖街道）の調査と記録 風土記の改訂	地域の歴史・文化の記録、保存、継承
事業実施後の効果予測	
・地域の歴史や文化を学ぶことで、地域の良さを知ることができる。 ・学社融合など世代間交流につながる。 ・伝統文化の継承や史跡の整備活動などへの意識向上につながる。	

② 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
児童園児を対象とした史跡等の学習 SDG s の基本を学ぶ機会の確保	地域の歴史、文化、自然の学び SDG s の理解と実生活での実践
事業実施後の効果予測	
・地域の方（学校外部の人材）から地域のことを学ぶことができる。 ・地域の歴史、文化を知ることによって地域に愛着を持てるようになる。 ・学校と地域が連携し、世代を超えてSDG s の基本を学ぶ機会が確保できる。	

③ 交流の場づくり

対策事業	事業の目的
文化・体育事業	地域間世代間の交流
事業実施後の効果予測	
・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・健康増進や学習意欲の向上につながる。	

長野公民館

1. 地域の現状

長野公民館は、伏菟野・西原・東原・長尾・上野（馬我野）の5つの区を擁する長野町内会を館区としています。地域のほとんどは山地であり、面積も22㎢と広大で、自治体として一つにまとまったのは明治22年の伏菟野・上長瀬・馬我野の3村合併からです。

この地域は昔から農業が基幹産業で、現在は梅とミカンが主に栽培されています。人口は昭和40年代以降、減少が激しく最多時の約半分で、ここ数年では年々少しずつ減少している状況です。令和4年9月末現在の世帯数は322世帯で、人口は620人となっており今後も人口の減少はさらに続き、少子高齢化が進むことが予想されます。

しかしながら、この地域には、長尾坂から潮見峠に至る熊野古道があり、それにまつわる遺跡や伝承も数多くあります。自然環境としても蛍の乱舞する左会津川や、それを挟んで両立する2つの山（高尾山、楨山）等風光明媚な場所も多く、長野のこのような環境を求めてIターン、Uターンをする人々もみられます。

地区内には、3つの小学校と1つの中学校がありましたが、児童生徒数減少に伴い1つの小学校を残し3校が廃校となりました。地区内の学校は1校となりましたが、それでも公民館や地区住民との絆は強く、学社連携や学社融合が叫ばれる前からその実践が続けられており、多大な成果を上げています。また、地域にとって学校は文化の灯火、住民交流の核となっています。

2. 目指すべき地域像

- ・地域の歴史を学び、豊かな自然環境を再発見するなかで、全ての住民が郷土に誇りを持てるような地域を目指します。
- ・若者世代が喜んで子育てができる地域を目指します。
- ・高齢者や子供、転入者や障害者等、誰でも気軽に集まれる憩いの場を設け、普段から交流が活発で住みやすい地域を目指します。
- ・助け合い精神を広め、災害に強い地域を目指します。
- ・地域の特産品などの情報を発信し、産業の発展と後継者の育つ地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・地域の歴史や地域の資源を活用した取組を展開します。
- ・地域の諸団体と協力して、地域内外の子育て世代が参加・交流できる取組を展開します。
- ・地域住民の健康管理や地域について話し合い、交流し、行動できる場を提供します。
- ・学校、家庭、地域の連携を図り、地域の特色を生かした学社融合の取組を推進します。
- ・子供たちが地域に興味や愛着を持つような取組を展開します。
- ・地域のスペシャリストやアイデアマンと連携し、地域の特色を地域外へも発信します。
- ・防災意識や人権意識の向上への取組を展開します。
- ・SDGs（持続可能な開発目標）の学習機会提供と生活での実践活動を推進します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 歴史・文化の継承

対策事業	事業の目的
史跡の保全、熊野古道の整備	地域の歴史、文化の保存継承
事業実施後の効果予測	
・地域の歴史や文化を学ぶことで、地域の良さを知ることができる。 ・地域内における文化的景観の維持保存。 ・伝統文化の継承や史跡の整備活動などへの意識向上につながる。	

② 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
学社融合推進協議会を核とした取組 地域と連携したホタル学習 SDGsの基本を学ぶ機会の確保	地域の産業や自然等の学び 地域資源と人材を活用した学社融合 SDGsの理解と実生活での実践
事業実施後の効果予測	
・地域内の産業や人材に触れ、学ぶことで地域への理解が深まる。 ・地域の歴史、文化を知ることによってふるさとに愛着を持てるようになる。 ・学校と地域が連携し、世代を超えてSDGsの基本を学ぶ機会が確保できる。	

③ 交流の場づくり

対策事業	事業の目的
文化・体育事業	地域間世代間の交流
事業実施後の効果予測	
・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・健康増進や学習意欲の向上につながる。	

上秋津公民館

1. 地域の現状

上秋津は、旧田辺市のほぼ中央に位置し、標高 606 メートルの高尾山のふもとに広がる地域です。面積は 12.97 ㎢、世帯数 1,200 戸余り、人口約 3,200 人で、新旧住民混住化の進む農村で、地域は 11 の集落から成り立っています。地域には、町内会をはじめ、あらゆる組織・団体からなる「秋津野塾」というまちづくり団体が結成されており、さまざまな活動を行っています。環境、健康、福祉、教育、防災など地域社会には様々な課題があり、そうした課題について、住民自らが考えて、ひとつひとつを解決し、快適で安全、そして健康に安心して暮らせる、いきいきとしたコミュニティ作りを目的としています。この秋津野塾の活動は、地域に活力をもたらし、地域の明日を担うリーダーが生まれつつあり、公民館もこの「秋津野塾」と共に地域づくりに励んでいます。

公民館がある上秋津農村環境改善センターは、毎年約 30 の団体が延べ 400 回以上使用しています。地域のあらゆる会議が開催され、サークル・教室の利用者をあわせると、その数は年間 15,000 人以上になり、生涯学習の中心的な施設として地域の皆様に利用されています。

2. 目指すべき地域像

上秋津では昭和 31 年の町村合併のあと、山林や土地など村有財産の処分をめぐって激しい議論がありましたが、「村の共有財産は、将来の地域を支える子供たちのため有効に使われるべき」との提案から、社団法人上秋津愛郷会が発足しました。この事により愛郷会から毎年上がる利益は、「教育・福祉・環境保全」に全て使用され地域振興の大きな財源となっています。

議論を経て「長期的な視野に立った結論を得る」と云うのが当時の上秋津の人々の精神であり、私たちはこれに学び、衆知を結集して行動を積み重ね、誇りの持てる地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

「高尾の山に いきいきと ふれあい 集う 上秋津」を目指し、上秋津公民館は、地域課題や住民の生活課題の把握に努め、その解決に向けた学習活動の支援を行います。

「いつでも・どこでも・誰とでも」学び合い、語り合う楽しみを実感できる生涯学習の拠点として、また、地域の特徴ある自然・歴史・文化を基礎に、子供と大人、そして地域をつなぎ、幼・小・中学校や「秋津野塾」等の各種団体と連携を密にし、ともに協力して地域の活性化につながる事業を積極的に展開していきます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 地域講座の開催

対策事業	事業の目的
地域講座	地域の課題や歴史、文化を知る
事業実施後の効果予測	
・地域の歴史や文化を学ぶことで、地域の良さを知ることができる。 ・地域の良さを再発見し、今後の公民館活動に生かしていく。 ・世代間交流の推進につながる。 ・地域の実情を知り、課題を把握することで、課題解決に向けた取組に役立てていく。	

② 防災学習の推進

対策事業	事業の目的
防災学習会	防災意識の向上
事業実施後の効果予測	
・毎年防災学習会を開催することで、日頃から防災に対する意識を高められる。 ・避難所運営を担う住民を育成することができる。 ・自助、共助、公助の理解を住民間で深めることができる。 ・明治の大水害について学び、継承していくことができる。	

③ 農業体験学習の推進

対策事業	事業の目的
農業体験学習	子供たちに農業の良さを知ってもらう
事業実施後の効果予測	
・地場産業である農業を知ること、郷土愛を育むことができる。 ・農業に対する住民理解を深めることができる。 ・農業に対する課題を子供たちに知ってもらうことができる。 ・次世代を担う子供たちに農業の大切さを知ってもらうことができる。	

秋津川公民館

1. 地域の現状

秋津川地域は、高尾山の北側の山あいを流れる二つの川に沿って民家が点在し、谷川・下村・中村・竹藪の4地区で組織され、面積は25㎢、世帯数は286世帯、人口は574人（令和4年9月末現在）です。

当地域は、紀州備長炭の発祥の地ということから、平成9年には備長炭記念公園が開園し、その際、炭焼き窯が整備されました。同年、秋津川振興会が組織され、春まつりなどのイベントのほか、他府県からの修学旅行生の受け入れや特産品を使った体験教室（梅ジュース作り、炭風鈴作り、窯出し体験等）を行うなど、地域のPRと活性化の活動が認められ、平成24年、同会は「豊かなむらづくり全国表彰事業」の近畿農政局長賞を受賞しています。

また、昭和62年、特産の紀州備長炭を素材に、長さを調節した楽器「炭琴」が秋津川中学校で考案され、現在も小中学校の教材として取り入れられており、その炭琴を演奏する地元「炭琴サークル」は全国的にも珍しく、県内外から演奏依頼があり、平成6年の結成以来、活発な活動を続けています。

秋津川公民館は、保育所・小中学校・JA紀南・診療所などと隣接し、地区の中心的な位置にあり、地域のつながりは強く、公民館は地域事業の中心的な役割を担い、保育所・小中学校・住民が合同で行う町民運動会や敬老会などを開催、おるり音頭など伝統文化の継承に努めるなど、各種団体、小中学校等と連携して地域づくりに取り組んでいます。

2. 目指すべき地域像

- ・ 自然災害や防災への知識を深め、地域をよく知り、地域の弱点を住民全体が共有するなど、災害に強い地域づくりを目指します。
- ・ 高齢者や子供をはじめ、住民皆がいきいきと安心して暮らせる優しい地域づくりを目指します。
- ・ 豊かな自然や地域に伝わる「おるり音頭」、「炭琴」などの伝統文化を後世へ継承させていきます。
- ・ 住民が積極的に子供たちの育成に関わり、交流を深め、様々な事柄を体験させ、地域の良さを伝えていきます。
- ・ 秋津川の地域資源、魅力を積極的に外部へ発信し、多くの人との交流を推進していきます。

3. 公民館の果たす役割

- ・ 住民の防災知識や人権意識、教養の向上に向けた取組を展開します。
- ・ 地域の情報収集に努めるとともに、内外への発信に努めます。
- ・ 地域の歴史、伝統文化の継承に向けた取組を展開します。
- ・ 学社融合事業など住民と子供たちをつなぐ取組を展開します。
- ・ 地域活性化に向けての学習会・研究会の開催に努めます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 伝統文化の継承

対策事業	事業の目的
炭琴サークル 盆踊り大会	伝統文化の継承
事業実施後の効果予測	
・ 貴重な文化財を次代に残す。 ・ 地域の伝統文化、地域の産業を知ってもらうことで地域の良さを再確認する。	

② 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
学校と各種地域団体との交流事業 (炭琴・おるい音頭の授業等)	地域資源・文化等について学ぶ
事業実施後の効果予測	
・ 地域の方から地域資源や文化等について学ぶことができる。 ・ 地域の方との交流を通し地域を知ること、地域に愛着を持つことができる。	

③ 地域コミュニティの発展

対策事業	事業の目的
町民運動会 ふるさと祭り	地域コミュニティの発展
事業実施後の効果予測	
・ 住民相互の絆をより深め、地域全体の活性化につながる。 ・ 郷土愛の精神の育成により、若者の定着を促す。	

上芳養公民館

1. 地域の現状

上芳養地域は、田辺市街地より北西の芳養川上流に位置し、世帯数 623 世帯、人口 1,538 人（令和 4 年 9 月末現在）の上芳養町内会からなる、梅やみかん、ジビエ等を特産とした自然豊かな農村地域です。上芳養町内会は、日向区、東山区、西山区の 3 区で構成され、公民館は日向分館、東郷分館、西郷分館、古屋谷分館、小恒分館、石神分館の 6 分館で構成されています。古くは、上芳養村といい、昭和 31 年に周辺の中芳養村、秋津川村、上秋津村、三栖村、長野村の 6 村で合併し、牟婁町が誕生、その後、昭和 39 年に田辺市と合併しました。さらに、平成 17 年 5 月には、田辺市を含む周辺 5 市町村による広域合併が行われ現在に至ります。

生活形態においては、専業または兼業農家の住民が多く、早出しみかんや梅製品の名産地として知られています。平成 27 年には、生態系に配慮した持続可能な農業を実践している地域として、みなべ・田辺地域の梅システムが世界農業遺産に登録されました。また、旧来からの農地や開墾した山林に梅を植え生産高を上げるだけでなく、梅加工場の経営などに事業拡大を図る農家も多くなり、年間を通してそれらの梅加工場で正社員やパートとして梅干し加工等の生産に従事する人も多く、雇用促進に寄与しています。そして、近年では、上芳養地域においても、農業の近代化や農園の拡充等梅産業の発展がみられています。一方で、少子高齢化が顕著となってきただけでなく、人口においても減少傾向にあります。高齢者の介護施設が設置される等の対応が進み、地域社会のありようそのものが変化しつつあります。

こうした中で、上芳養公民館は、上芳養農村環境改善センター内に上芳養連絡所と共にあり、新たに上芳養診療所も併設されました。上芳養公民館は、地域における生涯学習の推進及び市民の自主的・主体的な地域づくりにおける活動の拠点としての役割を担っており、住民の学習ニーズや地域課題に対応した事業及びSDGsの目標達成に資する事業に取り組んでいます。

2. 目指すべき地域像

- ・若い世代が定着し、子供からお年寄りまでみんなが安心して心豊かに暮らせる地域を目指します。
(住民が多様性を受容し、人権を尊重し、相互扶助・情報交換が活発に行われる)
- ・世代間等で価値観の相違があっても、互いに違いを認め合いながら、伝統として残すべきもの、変えていくべきものを話し合い、コミュニティが活性化している地域を目指します。
- ・防災について学び、日頃から災害に対して備えを怠らない地域を目指します。
- ・地域と学校が連携し、子供を安心して育てていける地域を目指します。
- ・SDGs（持続可能な開発目標）に積極的に取り組む地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・住民同士の交流促進や、地域の課題解決に取り組み、誰一人取り残さない、持続可能な地域づくりに取り組みます。
- ・地域の課題や、未来について地域住民同士が考え、意見できるような場を提供します。
- ・将来を担う子供たちが地域のことをよく知り、多くの地域住民と交流することで地域に愛着を持つような学社融合の取組を展開します。

- ・子供たちが豊かな感性を育めるよう、学校生活では体験できないような事業を展開します。
- ・防災や人権について、地域全体として意識高く取り組めるような学習会を開催します。
- ・SDGsについて、一人ひとりが「自分事」と捉え、積極的に取り組むような働きかけを行います。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 子ども達の感性を育む体験教室の開催

対策事業	事業の目的
カヌー体験教室、乗馬体験教室、 焦がし絵体験教室	日常生活では体験できないような事業を通して、子供たちの豊かな感性、人間性を育む
事業実施後の効果予測	
・学校や家庭等、日常では体験できないような事業を実施する事で、子供たちは新たな刺激を受け、心身共に成長する一端を担い、豊かな感性、人間性を育むことにつながる。 ・学年が違って同じ体験をすることで、子供同士の交流が深まり、より良い交友関係を築くことができる。 ・新しい趣味、特技の発見につながり、さらなる可能性を引き出すことができる。	

② 幅広い世代の住民間交流の促進

対策事業	事業の目的
各種体育大会、梅林へ歩こう会 文化事業、社会見学会 (卓球大会、手づくり作品展など)	普段関わりの少ない住民同士の交流を促進し、地域の活性化につなげる
事業実施後の効果予測	
・各種体育大会や梅林へ歩こう会など、体を動かしながらであれば、住民同士コミュニケーションはよりスムーズになり、健康増進にもつながる。 ・手づくり作品展は、共通の趣味や特技を持った住民同士の橋渡し役ともなり、新たな交友関係を築くことや、その後、お互いに教え合うことで技術の向上にもつながる。	

③ 防災、人権や地域課題に取り組む学習会（講演会）の開催

対策事業	事業の目的
防災学習会、人権学習会 各種学習会・講演会	大規模災害に対して、十分な備えをする 様々な問題・課題に取り組み、地域全体として意識を高める
事業実施後の効果予測	
・防災の学習を行うことで予め備えができ、自分や家族、周囲の住民を守る行動が取れる。 ・人権について学ぶことで、多様性を尊重する心を持ち、誰一人取り残さない、持続可能な地域の形成につながる。 ・地域課題に目を背けず取り組むことで、子供たちのためによりよい未来となる。	

中芳養公民館

1. 地域の現状

中芳養公民館は、林区、田尻区、西野区、平野区、小野区、貝田区、貝田東区、長屋谷区の8区を擁する中芳養町内会を館区とする公民館です。

この地域は、農業を主な基幹産業として発展してきました。現在は主な産物として梅やみかんがよく知られています。

このように、自然に恵まれて農業振興地域として発展してきた地域ですが、近年にいたっては、県道上富田南部線や県道芳養清川線の改修が進み、さらに貝田区に県営、市営住宅が建設され、貝田東区及び長屋谷区で宅地造成が進められるなど、その姿は大きく変わりました。

古くは、中芳養村といい、昭和31年に周辺の上芳養村、秋津川村、上秋津村、三栖村、長野村の6村で合併し、牟婁町が誕生、その後、昭和39年に田辺市と合併しました。さらに、平成17年5月には、田辺市を含む周辺5市町村による広域合併が行われ現在に至ります。

旧中芳養村当時は世帯数315戸、人口1,250人でしたが、現在（令和4年9月末現在）では、世帯数708世帯、人口1,847人を数えています。

中芳養公民館は、地域コミュニティ活動の拠点として、中芳養町内会、芳寿会、J A、消防団、幼稚園、小学校、中学校などと連携しながら地域づくりを推進しています。

2. 目指すべき地域像

- ・子供からお年寄りまで、幅広い年齢層の住民間のコミュニケーションが良好で、互いに手を取り助け合い、住民が孤立しない地域を目指します。
- ・「住み続けたい中芳養」を後世に残せるように積極的にまちづくりに取り組む地域を目指します。
- ・文化や芸術、運動など様々な活動に挑戦することで趣味や交友関係を広げられる地域を目指します。
- ・日頃から、住民同士が声をかけ合い、災害に対しての知識を身に付け、備えをする地域を目指します。
- ・人権について学び、正しい考え方を持つ地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・住民同士の交流を促進し、誰一人取り残さない地域づくりに取り組みます。
- ・関係機関、団体等と連携を取り、地域課題を解決すべく取り組みます。
- ・子供たちが地域に愛着を持ち、地域を大切にしたいと思えるような学社融合の取組を展開します。
- ・SDGs（持続可能な開発目標）を住民に意識付け、一人ひとりが自分にできることを大切に取り組む地域づくりを推進します。
- ・人権に関する学習会や、大規模災害に備えた学習の場を設けることで、自分や周りの人を守ることができるよう、日頃から意識を高め、知識を習得できる場を提供します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 地域間交流の促進

対策事業	事業の目的
春・秋グラウンドゴルフ大会 夏祭り、合同作品展	幅広い年齢層の住民間交流を促進し、地域の連帯感をより高める
事業実施後の効果予測	
- 各事業を実施することにより、世代間の交流はより活発になり、さらに他地区の住民とも交流が深まる。 - 地域住民や、関係する各団体とも事業を通じて協力し合うことで、地域の一体感が強くなり、高齢者の孤立化を防ぐことにもつながる。	

② 文化・体育体験教室の開催

対策事業	事業の目的
絵便り教室、焦がし絵教室、ヨガ教室	体験事業を通して、豊かな感性を育む 運動習慣を身に付け健康維持につなげる
事業実施後の効果予測	
- 自分一人では取り組まないことも、地域の方と一緒に参加することで、新たな趣味や特技の発見につながり、文化的な事業に関心を持つことができる。 - 共通の趣味や特技を持った住民同士で新たな交流が生まれ、お互いに切磋琢磨し、技術を高めることができる。 - ヨガをすることで、健康増進につながり、心も豊かになる。	

③ 防災・人権に関する学習会の開催

対策事業	事業の目的
防災・人権学習会	大規模災害に備え、自分自身と周りの人を守る手段を身に付ける SDGsの項目にも含まれる、人権についての意識をより高める
事業実施後の効果予測	
- 防災意識が高まり、防災グッズの準備や避難ルートの確認など、事前の備えができる。 - 防災の知識を得ることで、自分だけでなく、家族や地域住民を守るための行動ができ、お互いに助け合うことができる。 - 人権学習を通じて、多様な考えがあることを知り、理解することにつながる。 - 地域の大人達が率先して、人権について学び、正しい考えを持つことで、子供たちもおのずかと思いやりの心を育てていくことにつながる。	

ひがし公民館

1. 地域の現状

ひがし公民館の対象区域（館区）は、田辺市の中心市街地東側の丘陵地帯に位置し、新万・南新万・あけぼの・朝日ヶ丘の4つの町内会からなる世帯数約2,900世帯、人口約5,800人（令和4年9月末現在）の地域です。

この地域は、昭和30年代後半よりJR紀伊田辺駅裏の丘陵地を切り開き、宅地造成や公営住宅、一般住宅地として大規模開発され、そこへ市内や周辺市町村、県外などから転入した人々によって新しく作られた地域です。主に住宅地であるこの地域は、一部商店・自営業を営んでいる方のほか、大多数は市内へ勤める勤労世帯が占めています。4つの町内会では、諸行事、学習会や清掃活動など様々な活動が行われています。

ひがし公民館は、昭和54年4月に田辺東部小学校の新設と共に誕生しました。当初は公民館施設がありませんでしたが、平成7年10月に田辺東部小学校敷地内に学校と隣接した形で公民館施設が建設されました。公民館は、サークル活動のほか、学校行事や地域活動など各種学習の場として広く利用されています。

2. 目指すべき地域像

- ・価値観の多様化などにより、地域のつながりが希薄化しています。交流事業などを通して地域間・世代間の交流を促進し、地域コミュニティを強化します。
- ・各町内会の自主防災組織や学校、地域団体の連携を密にし、訓練や防災学習の機会を充実させ、個々の防災意識を高め、災害被害をできる限り抑えることができる体制と、災害時、他の地域からの避難者も受け入れることができる幅広い体制を作ります。
- ・新興住宅地であるため、景勝地や寺社・お祭などの自然・歴史・伝統文化がないため、この地域で生まれ育った世代が、地域を愛する心を持ち、新たな地域の伝統や文化を創造するよう努めます。
- ・子供たちが安心してのびのびと暮らせるよう、自然に触れることや昔ながらの遊びを通じて様々なことを体験させ、地域・家庭が主体となって子供を育てる雰囲気を作ります。

3. 公民館の果たす役割

- ・町内会・学校・各種団体等と連携し、地域・世代を超えて交流する機会を提供します。
- ・自主防災組織などと連携を密にし、防災意識の向上につながる取組を実施します。
- ・お互いを思いやれる地域を目指し、交流事業や人権学習などの取組を実施します。
- ・地域の憩いの場として、地域住民が集える場を整えます。
- ・学校・家庭・地域と連携し、子供が安心して暮らせる環境づくりに協力します。
- ・各種関係機関や団体等と連携し、健康や防犯、防災など生活に密着した学習の機会を作り充実させます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 防災学習の促進

対策事業	事業の目的
防災講演会・交流会	防災意識の向上
事業実施後の効果予測	
・災害に対する認知や対応力を高めることができる。 ・被災時の自助・共助・公助の役割を正しく理解することができる。 ・避難所運営の中核を担う住民を育成することができる。	

② 交流の促進

対策事業	事業の目的
各種文化・体育事業	地域間、世代間の交流
事業実施後の効果予測	
・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。 ・事業を楽しみにしている住民の生きがいがいづくりの場を提供することができる。	

③ 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
語り部活動、夏休み子ども体験教室	地域全体により子供を育てる意識の醸成
事業実施後の効果予測	
・地域の歴史や活動について学ぶことで、地域に愛着を持つことができる。 ・地域全体で子供を育てるという意識につながる。 ・住民の活躍の場と生きがいがいづくりになる。	

龍神公民館

1. 地域の現状

龍神村は、市の北部に位置し、面積 255 ㎢、市の面積の約 25% を占め、面積のほとんどが山岳地帯です。村の 70% が標高 500m 以上の山地で占められ、和歌山県最高峰龍神岳や伝説が残る護摩壇山に源を発する日高川が中央を縦貫している山紫水明の自然豊かな地域です。世帯数は 1,488 世帯で、人口は 2,826 人（令和 4 年 9 月末現在）、65 歳以上の人口が 40% 以上を占め、限界集落（高齢化率 50% 以上）地域も 4 地区あり、少子高齢化が急速に進んでいます。良質な温泉「龍神温泉」をはじめ豊富な環境資源を活用した産業に力を注いできましたが、高齢化や後継者不足による地域産業の衰退が今後も懸念されます。一方で、10 年以上継続して近畿、次いで関東から I・U ターン者が移住しており、田辺市全体の移住者数の 2 割を占めます。このような状況にあって、I・U ターン者による「地域おこし・産業おこし」の取組や株式会社龍神村などによる地域活性化の動きが注目されています。

生涯学習の活動は、龍神公民館と地域内に 7 分館があり、学習の拠点となる龍神公民館のある龍神市民センターでは各種教室やサークル活動、それぞれの発表の場として広く活用されています。また、龍神村では従来から学校と公民館で「龍人学」（ふるさと学習）と称し学社融合の取組を展開してきました。少子化による学校の統廃合により、現在では小学校が 4 校、中学校が 1 校となりましたが、取組の成果は現れています。今後も公民館と学校の結びつきを深め、地域及び学校の力を相互に活用しながら教育力や地域力を高めることが求められています。

2. 目指すべき地域像

- ・ 地域防災の輪を広げ、災害に強い安全・安心な地域を目指します。
- ・ 若い世代を中心とした地域を支えるリーダーがいる、住民が活発に活動する活気のある地域を目指します。
- ・ 互いに思いやりと感謝の心を持ち協力し助け合う、つながりや絆が強い地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・ 人権・防災についての学習の場を設けます。
- ・ 地域の核となる人材の育成に努めるとともに、活躍の場を提供します。
- ・ 学校と地域の交流が図れるよう、学社融合の取組を推進します。
- ・ 地域間及び幅広い年齢層の交流の場を設けます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 人権学習、防災学習の推進

対策事業	事業の目的
人権学習会、防災学習会	人権意識、防災意識の向上
事業実施後の効果予測	
・災害に係る環境について学習し、多様な知識を獲得することで、災害をいたずらに恐れることを防ぐことができる。 ・被災時の自助・共助・公助の役割について正しく理解することができる。 ・人権について正しく理解することができる。	

② 人材育成の推進

対策事業	事業の目的
地域づくりに対する講演会及び学習会 学社融合の推進	若年層を中心とした人材育成
事業実施後の効果予測	
・これからの地域を担う人材を育成することができる。 ・児童生徒と地域住民の交流を通して、相互に学習することができる。	

③ 交流の促進

対策事業	事業の目的
交流の場の設置	地域間及び幅広い年齢層の交流促進
事業実施後の効果予測	
・地域間や幅広い年齢層での交流を促進することにより、つながりの強い地域をつくることができる。 ・交流を促進することにより、さまざまな事業で協力を得ることができるなど、事業の充実が期待できる。	

中辺路公民館

1. 地域の現状

中辺路町は、果無山脈を源流とする富田川、日置川の上流域に位置し、昭和 31 年に栗栖川村、二川村及び近野村が合併し誕生しました。町名は熊野三山への参詣道としてにぎわった中辺路街道に由来し、伝統文化や豊かな自然環境が残る、歴史的文化遺産に恵まれた地域です。

人口は、平成 24 年 3 月末現在の調査では、3,186 人、この内 65 歳以上の人口比率は 39.2%、15 歳未満の人口比率は 9.0%でありましたが、令和 4 年 3 月末現在の調査では、2,446 人、この内 65 歳以上の人口比率は 46.9%、15 歳未満の人口比率は 6.8%となっており、過疎化と少子高齢化が進んでいます。

町内の小学校は、旧村単位に各 1 校ありましたが、児童数の減少により、平成 25 年 4 月から栗栖川小学校と二川小学校の統合により、新たに中辺路小学校が開校しました。現在、近野小学校と合わせて 2 校あります。中学校は、中辺路中学校と近野中学校の 2 校があります。

地域の主な産業は、世界遺産熊野古道の注目が高まりを見せたこともあり、宿泊等の観光産業をはじめ、紀州備長炭などの製炭業、農林業及び米づくりを行う兼業農家が多く、梅、シイタケ、シキミ、サカキ等を生産し、J A への出荷や販売も行われています。

地域には、滝尻・継桜王子など 7 つの国指定史跡、天然記念物としての野中の一方杉（県指定）、宝泉寺の大銀杏（市指定）などを有しています。

公民館は、会議室や調理室などを備える中辺路コミュニティセンターを拠点に、自治会や中辺路地区体育協会、中辺路公民館区文化団体連絡会など各種団体と連携し、住民の多様なニーズや地域課題に対応した学習機会を提供しています。

町内には、多目的グラウンド、若もの広場、栗栖川テニスコート、二川体育館、近野プールの 5 つの社会体育施設があり、生涯体育の場として活用されています。

2. 目指すべき地域像

- ・住民一人ひとりがお互いを思い、それぞれの違いを認め合い、助け合いながら心豊かに暮らせる地域を目指します。
- ・子供たちを育てる意識を高め、特色を生かしながら、地域・学校が一体となって学社融合の取組を進める地域を目指します。
- ・多くの住民が地域活動に参画し交流することにより、住民相互のつながりを密にする地域を目指します。
- ・若者がいつまでも住み続けたい豊かな町、ふるさとを誇りに思える地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・SDG s 達成と持続可能な地域づくりに向け、一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できる地域を目指し、関係機関、団体と連携して人権意識の向上に努めます。
- ・地域の拠点として、各種行事を通して、地域間、世代間など住民相互の交流を促進します。
- ・地域、学校と連携し、心豊かな子供を育て、地域に愛着を持てるような学社融合の取組を推進します。
- ・地域の自然、環境、文化、歴史などを学ぶ取組を展開し、その魅力を再認識できるよう努めます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① コミュニティの活性化

対策事業	事業の目的
スポーツ・文化交流事業	住民相互の交流促進
事業実施後の効果予測	
・地域間、世代間など、住民相互の交流を図ることができる。 ・人と人とのつながりが深まり、連帯感の強化や地域の活性化につながる。	

② 地域を学ぶ学習会の開催

対策事業	事業の目的
中辺路子ども環境探偵団	郷土の素晴らしい自然に親しみ、自然を愛し、自然を考える活動を展開することで環境を守る心を育み、環境保護活動の大切さや地域の文化を学ぶ
事業実施後の効果予測	
・郷土の素晴らしい自然、歴史、文化などに親しむことができる。 ・環境を守る心を育み、環境保護活動の大切さを学ぶことができる。 ・地域を学ぶ取組により、その魅力を再認識し、地域を誇りに思える心の醸成につながる。	

③ 人権を考える学習会の開催

対策事業	事業の目的
人権を考える学習会	人権に関する学習機会を提供し、人権意識の向上につなげる
事業実施後の効果予測	
・様々なテーマの人権学習により、広範囲に学ぶことができる。 ・人権について考えることができ、人権意識の向上につながる。 ・人権学習を深めることで、思いやりの心を育むことができる。	

大塔公民館

1. 地域の現状

田辺市の東端に位置する大塔地域は、面積 219.06 ㎥と田辺市域の約 21%を占め、その内約 96%が山地や急峻地になっています。大塔という名は、南北朝時代、後醍醐天皇の息子「大塔宮護良親王」が、都より熊野に落ち延びる途上、ひとときの安らぎを求めてこの地に滞在したという故事に由来しています。令和 4 年 9 月末現在、世帯数は 1,266 世帯で、人口は 2,368 人、高齢化率は約 35.6%となっています。地域は、主に鮎川（13 区）、三川（10 区）、富里（6 区）の 3 区に分かれており、地域内では、県指定無形文化財の「上野の獅子舞」等の伝統文化が受け継がれており、市指定無形文化財の「梵光寺の仏像」や県指定史跡「鮎川王子跡」など、多くの文化財を始め、「百間山溪谷」、「安川溪谷」といった四季を通じて楽しめる豊かな自然も多く残されています。

地域には、小学校 11 校（分校 3 校）、中学校 3 校がありましたが、児童生徒数減少に伴い、現在は、鮎川小、大塔中の 1 校ずつのみとなり、児童生徒数は計 162 名となっています。

地域の行事・祭りでは、都市との交流イベント「大塔地球元気村」を始め、「ふるさと富里祭り」や「住吉神社秋祭り」等が開催され、多くの人で賑わっています。

大塔地域の玄関口である鮎川地域に対し、山間部の三川地域、富里地域は、広大な区域に集落が点在し、地域住民と児童生徒との交流が困難なこと、また、若者の就労に結びつく地域産業も少なく、少子高齢化が一段と進んでいることから高齢者の生活や交通手段の確保、自治会活動への支障等、さまざまな課題が出てきています。

大塔総合文化会館を活動拠点とする大塔公民館は、鮎川分館、三川分館、富里分館の 3 分館と連携・協力しながら、住民の交流促進と生涯学習の推進に努めています。

2. 目指すべき地域像

- ・世代間の交流及び地域間の交流を図り、住民が助け合い、いきいきと活動する地域を目指します。
- ・全ての住民が安心して生活ができる地域を目指します。
- ・住民が行事や教室に、気軽に参加できる地域を目指します。
- ・持続可能な地域づくりを支える若い世代のリーダーが育つ地域を目指します。
- ・豊かな自然環境を守り、生かすことができる地域を目指します。
- ・先人から受け継がれた伝統文化や歴史を学び、継承する地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・各種行事を開催するとともに、学校や地域とも連携を図り、住民相互の交流を図ります。
- ・住民が安心して暮らせるよう防災や人権の意識、情報機器の操作の向上に向けた取組を展開します。
- ・出張教室（講座）や各地域での事業の開催等、これまで以上に住民が気軽に参加できるような支援活動を展開します。
- ・地域の人材の掘り起こし、生涯学習や学社融合における活躍の場を提供します。
- ・豊かな自然環境を守るための学習の提供と自然を生かした地域づくりに努めます。
- ・若い世代を中心に、地域の歴史や伝統文化を学ぶ機会を提供し、保護に努めます。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 公民館活動の充実

対策事業	事業の目的
出張教室や各地域単位での事業	住民がより気軽に公民館活動に参加することができるようにする
事業実施後の効果予測	
・ 移動手段のない住民が、公民館活動に参加することが可能になる。 ・ 住民にとって公民館がより身近なものとなる。 ・ 地域の活性化につなげることができる。	

② 持続可能な地域づくりを支える次世代の人材育成

対策事業	事業の目的
地域についての講演会及び学習会 学社融合に係る諸活動	次世代の人材育成
事業実施後の効果予測	
・ 地域を担う次世代のリーダーを育成することができる。 ・ 地域の現状や未来について次世代に伝えられる。 ・ 住民の活躍の場が広がる。	

③ 自然に関する事業の実施

対策事業	事業の目的
自然とのふれあい体験・講座	自然の良さや地域の魅力を再発見する 持続可能な自然保護活動を推進する
事業実施後の効果予測	
・ 地域の観光資源についてのイベントを開催し、自然の良さや地域の魅力を改めて感じ、持続可能な保護活動（SDGs）につなげることができる。	

本宮公民館

1. 地域の現状

古くから熊野地方の拠点として知られる本宮地域は、平安朝以前から熊野三山の一つである熊野本宮大社を中心とする信仰の地として栄えてきました。熊野古道や経塚等多くの歴史資源、湯の峰温泉、川湯温泉、渡瀬温泉の3つの温泉に代表される豊富な観光資源を有し、平成16年7月には「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、県内外から多くの来訪者で賑わっています。昭和31年に三里村、本宮村、四村、請川村、敷屋村の一部が合併し、本宮町となりましたが、当時10,000人近くあった人口は、令和4年3月末現在では約2,488人に減少し、高齢化率（65歳以上人口/総人口）も52.2%と非常に高く過疎化と高齢化が深刻な問題となっています。

本宮地域は全体面積の93%が森林地帯で、林業の町として栄えてきましたが、長引く不況と林業従事者の高齢化、担い手不足などにより低迷が続いています。農業については、お茶栽培に適した気候を利用した音無茶の生産と山間地にわずかに広がる農地を活用した水田耕作などが行われていますが、農業従事者の高齢化と鳥獣被害により耕作放棄地が増えています。

公民館については、本宮公民館と本宮分館、三里分館、四村川分館、請川分館の4分館で構成しています。本宮公民館が中心となり、各分館と連携・協力しながら、文化作品展や農林産物品評会、盆踊りや秋祭り、スポーツ大会やサークル活動、各種教室など地域の特性を生かし、地域住民が「だれでも」「いつでも」「どこでも」自由に参加できる公民館活動を展開しています。また、自治会や老人会、女性会等にも協力を呼びかけ、健康で、人権が尊重され、お互いが助け合い、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

2. 目指すべき地域像

- ・お互いが助け合い協力し合って、人と人とがふれあい、誰もがあいさつを交わせる思いやりのあるまちづくりを目指します。
- ・熊野本宮の良さを見直し、歴史・文化や自然を生かした活気あふれる地域を目指します。
- ・若者が本宮の魅力を感じ住みたくなる町、子供の声が聞こえる明るい地域を目指します。
- ・洪水や地震などの自然災害に強い地域を目指します。

3. 公民館の果たす役割

- ・地域住民の研修や交流の場を提供するなど、つながりを密にし、コミュニティの充実を図ります。
- ・地域の良さを再認識する機会を提供し、歴史・文化及び自然等の地域資源を活用した取組を展開します。
- ・本宮の魅力を発信し、住みよいまち・住みたくなるまちづくりの推進に取り組みます。
- ・防災意識の向上を図るとともに、地域住民のネットワークづくりを推進します。

4. 重点アクションプランの設定及び事業の実施とその効果予測

① 人権学習会の開催

対策事業	事業の目的
人権学習会	人権意識の向上
事業実施後の効果予測	
・小中学生の人権作文発表やその他講演会を開催することで、幅広い年齢層の方々に相手に対する思いやりの心を育む。	

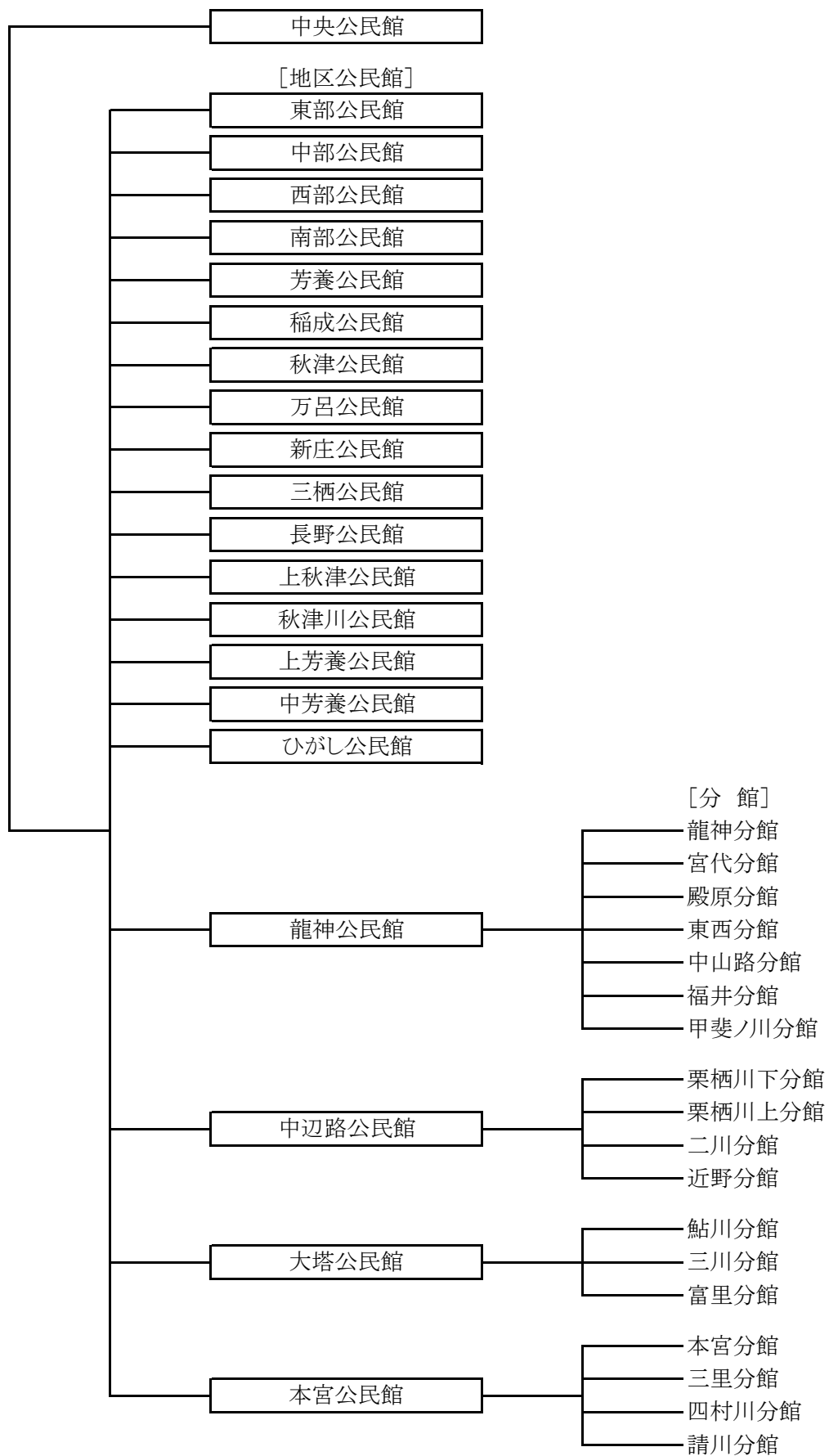
② 伝統芸能（無形文化財）の保存継承活動

対策事業	事業の目的
伝統芸能保存・継承活動	本宮町に伝わる伝統芸能の保存と継承
事業実施後の効果予測	
・一部で継承が危ぶまれている伝統芸能（無形文化財）について、教室等の生徒を広く募集し継承に努めることで、文化財の継承とあわせて地域での交流が生まれる。 ・子供たちに習得させることで将来的に継承できる人材が確保できる。	

③ 学社融合の推進

対策事業	事業の目的
学社融合活動	世代間交流や地域を知る機会の提供
事業実施後の効果予測	
・地域住民にとっては、子供たちとの交流により、地域全体で子供たちの成長を見守るという意識が高くなる ・子供たちにとっては、自分たちの育った地域のことを学び、知り、愛着を持つことにつながる。	

田辺市公民館機構図



資料編

(策定会議報告・地域シンポジウム報告)

東部公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	東部公民館運営役員会 10 名
	事務局 東部公民館 2 名（栗栖館長、日下主事）
日 時	令和 4 年 11 月 21 日（月） 午後 7 時～午後 8 時 15 分
場 所	東部公民館 大集会室
会議次第	1 開会挨拶 東部公民館 館長 栗栖崇 2 報告 東部公民館 主事 日下智哉 ①第 2 次東部地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （地域間交流の促進）	【対策事業】地域作品展、グラウンドゴルフ大会、バスピン大会 町内会をはじめ各種団体のリーダー層を担う人材の不足が懸念されていることから、地域や世代を超えた交流の実現や、地域の活性化につながるような取組を行ってきた。
アクションプラン 2 （学社融合の更なる推進）	【対策事業】バラの演奏会、ウォークラリー 学校と地域が連携・協力し、地域社会全体で子供を育てる環境を整えていくために、地域と共に学び合う学校づくりを目標に取り組んできた。
アクションプラン 3 （防災対策面の強化・充実）	【対策事業】防災訓練、防災に関する学習 防災訓練や学習機会を通じて住民の防災意識の向上と連帯感の強化につなげるため、学校と連携した学習を実施してきた。
課題・問題点	
公民館の避難訓練への参加者が例年少なかったことが今後の課題である。	

課題 1	参加者の声	
	・地域行事への参加が少ない。 ・地域活動を担う次の世代がいなくなっている。	
	対策事業(案)	事業の目的
	各種公民館事業の開催	地域間及び世代を超えた交流の実現
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。 ・住民の生きがいつくりの場を実現することができる。 ・全ての人に生涯学習の機会を提供することにつながる。	
課題 2	参加者の声	
	・お年寄りと若者の意見を交換できるような場があればいい。 ・保護者世代と交流するためにはどうしたらよいか。 ・子供の見守り等を通じて、地域の連携をより良くしていく。	
	対策事業(案)	事業の目的
	併設型公民館を活用した各種事業の展開	学校、地域、保護者、公民館の協働（地域全体）により子供と大人が学び合う
	事業実施後の効果予測	
	・世代を超えた交流の実現と相互の教育力の向上が図られる。 ・「地域と共に学び合う学校づくり」が実現する。 ・異なる年齢・立場の人が交流することによって、各々がもつ得意な技能や知識を共有することができる。	
課題 3	参加者の声	
	・災害に備えている家庭はどのくらいあるのか。 ・地域住民の防災意識を強化していく必要がある。 ・避難訓練や防災学習会への参加を促していきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災訓練及び防災に関する学習会の開催	防災意識の向上と地域の絆づくり
	事業実施後の効果予測	
	・住民の防災意識の向上と連帯感の強化につなげることができる。 ・災害時におけるリーダー層の育成につながる。 ・災害時の自助、共助、公助のあり方を正しく理解することができる。 ・子どもたちを交えた学習機会をもつことで、学社融合の視点による防災学習の推進が実現する。	

東部公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 18 日（金） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	東部公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 8 名
	社会教育委員 2 名（九鬼委員、小山委員）
	・事務局 東部公民館 2 名（栗栖館長、田中主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 1 名（北尾課長）
会議次第	1. 開会挨拶 東部公民館 館長 栗栖崇 2. 報告 東部公民館 主事 田中昂志 ①東部地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 神子浜町内会 会長 泉房次郎

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は 2005 年時点で 5,871 名であった人口が 2020 年には 4,960 名となり、その後も減少する予想。 ・2020 年時点で高齢化率がおおよそ 32%、2040 年には 40%以上の高齢化率となっており、65 歳人口は増加すると予測されている。地域の 3 人に 1 人以上が高齢者になるということになる。 ・0 歳から 14 歳までの子供の数に関しては、2020 年が 522 人に対し、2040 年予測では、335 人と大幅な減少が予想されている。 ・東部地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体の割合と概ね同じである。 ・BMI や糖尿病の検査項目、コレステロール値、血圧のデータでは、女性は、全ての項目が市の平均よりも下回っている。 ・男性の喫煙率と 20 歳から 10kg 以上の体重増加の項目は、市の平均よりも下回っている。しかし、運動習慣や身体活動、夕食後の間食、朝食欠食の項目は市の平均よりも上回っている。

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・ 思いやりがある・子供の見守り・ゴミ拾いをしてくれる人が多くいる ・ 買い物が便利・生活しやすい・史跡が多くある・神社がある・避難場所が多い ・ 小学校から高校までが地域に揃っている・田辺高校や神島高校、南紀高校がある ・ 老人会が充実している・公民館にいろいろなサークルがある ・ 地域のスポーツ団体がある・広い運動広場がある・文化学術地区である
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> ・ 子ども会への加入率・地域行事への参加が少ない・役をする人が少ない ・ 役員の固定化・少子高齢化・津波の危険性・避難する際に困難な地区がある ・ 災害に備えている家庭がどれほどあるか・朝、夕方の渋滞・買い物難民の問題
<u>課題を解決するために、自分が関われること</u> ・ 公民館や町内会の行事等で防災意識と人とのつながりを強くしていく ・ 避難訓練や防災学習への参加
<u>今後 5 年間の目標や課題</u> ・ 子供の見守り等を通じて、地域の連携をより良くしていく ・ 行事の開催、行事への参加をより進めていく



策定会議の様子



シンポジウムの様子

中部公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	中部公民館協力委員会 21 名
	事務局 中部公民館 2 名（田嶋館長、富山主事）
日 時	令和 4 年 6 月 8 日（水） 午後 7 時～午後 8 時
場 所	中部公民館 大集会室
会議次第	1 開会挨拶 中部公民館 館長 田嶋貞彦 2 報告 中部公民館 主事 富山唯 ①第 2 次中部地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 中部ブロック長 本町町内会 会長 多屋敦雄

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （防災学習の推進）	【対策事業】 防災学習会 地震により発生する津波の被害や豪雨等による洪水被害などに備えた防災に関する知識、意識の向上等につながるような取組を行ってきた。
アクションプラン 2 （交流の促進）	【対策事業】 地域運動会、地域作品展、グラウンドゴルフ大会 地域・世代間の交流を図ることを目的に各種文化・体育事業を実施してきた。
アクションプラン 3 （学習機会の提供）	【対策事業】 防災学習会、人権学習会、スマホの使い方教室 住民の学習ニーズに対応した学習会や健康講座を開催することで、少子高齢化などの課題に対する意識をもってもらよう取り組んできた。
課題・問題点	
行事への参加者の高齢化と参加人数の減少、人間関係の希薄化	

課題 1	参加者の声	
	・いつ災害が起こっても自分たちで自分たちの町を守れるよう、防災意識をもっておかなければならないと思う。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災講演会・学習会	防災意識の向上
	事業実施後の効果予測	
	・多様な知識を獲得することで、災害をいらずに恐れることを防ぐことができる。 ・被災時の自助・共助・公助の役割を正しく理解することができる。 ・避難所運営の中核を担う住民を育成することができる。	
課題 2	参加者の声	
	・交流する場はやはり必要だと感じる。 ・高齢者が多いので、若い人や子供たちと触れ合う機会が必要。	
	対策事業(案)	事業の目的
	体育・文化事業の開催	地域間・世代間の交流
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・事業を楽しみにしている住民の生きがいがいづくりの場を設けることができる。 ・住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。	
課題 3	参加者の声	
	・地域の人の交流の場にもなると思う。 ・現代はスマホなど、高齢者には分からないことが多いので、学べる機会が欲しい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	現代的課題に対する講座学習会の開催	住民の学習ニーズへの対応
	事業実施後の効果予測	
	・健康講座を開催することで、健康に対する意識の向上を図ることができる。 ・特殊詐欺等の被害防止やスマートフォンの使い方など、情報化社会に応じた学習会を開催することで、防犯意識を高め、高齢者の孤立を防ぐことができる。 ・地域の歴史・伝統に関する学習会を開催することで、郷土愛を育むことができる。	

中部公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年1月17日（月） 午後7時～午後9時
場 所	中部公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 11 名
	社会教育委員 2 名（小山委員、中根委員）
	・事務局 中部公民館 2 名（田嶋館長、富山主事） ・生涯学習課 6 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主査、田中主事）
会議次第	1. 開会挨拶 中部公民館 館長 田嶋貞彦 2. 報告 中部公民館 主事 富山唯 ①中部地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 中部ブロック長 本町町内会 会長 多屋敦雄

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で6,430名であった人口が2020年には5,226名となり、その後も減少する予想であり、旧田辺市内の中でも顕著に人口が減少。 ・2020年時点で高齢化率がおおよそ40%であり、地域の2～3人に1人以上が高齢者であるということが読み取れる。 ・15歳以上64歳以下の生産年齢人口について、2005年時点で3,479名であったのが、2040年には大幅に減少し、1,500名となることが予想されている。 ・世帯区分別世帯数の推移について、2005年時点で352世帯であった高齢者のみ世帯が、2020年には607世帯となり、15年間で約70%増加している。 ・空き家の数に関して、旧田辺市内の空き家の数の約25%を中部地域が占めており、空き家が多いことが分かる。 ・BMIや糖尿病の検査項目、コレステロール値、血圧のデータでは、中部地域では、コレステロール値と血圧が男女ともに市の平均を大きく上回っている。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 歴史、伝統のある町（南方熊楠、植芝盛平、闘雞神社、稲荷神社、田辺祭、弁慶まつり、錦水城、道分け石）
- ・ 会津川が流れている、河口の扇ヶ浜は整備され海水浴もできる
- ・ 近所付き合いや住民間の交流が活発で、町内住民のまとまりが良い
- ・ 味小路などの食事処が多い・人材が豊富・田辺駅がある・商店街がある
- ・ 田辺にある公共施設がほとんどある・防災学習を活発に行っている

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 田辺祭の存続、維持（人・金銭面）・一人暮らしの高齢者のサポート・少子高齢化
- ・ 空き家対策・開放可能な空き家情報・地域出身の有名人
- ・ 実際にどのような人材がいるのか・伝統のある食べ物について知りたい
- ・ 各町に子供が何人いるのか・地域の人々が何を一番求めているか・防災意識
- ・ 雇用形態・各施設への移動時間

課題を解決するために、自分が関われること

- ・ 町内の連携を深める（情報交換・交流等）・地域の見守り
- ・ 人との関わり合いを増やす・防災学習、地域学習
- ・ 小中学生の学習を利用しての地域調べ・地域の伝統を伝えていく

今後5年間の目標や課題

<課題>

- ・ 市役所などが移転したあとの地域の在り方・空き家の使い道
- ・ 田辺祭をどう続けていくのか（子どもの確保）・若い世代への「つながり」

<目標>

- ・ 元気に暮らしていく（日頃の会話・近所付き合い）
- ・ 人との関わりが必要・若い世代による情報発信が必要



地域運動会の様子



シンポジウムの様子

西部公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	西部公民館運営協力委員会 17名
	事務局 西部公民館 2名（中西館長、津田主事）
日 時	第1回 令和4年 6月10日（金）午後7時30分～午後9時 第2回 令和4年 11月17日（木）午後1時30分～午後3時（小委員会） 第3回 令和4年 11月28日（月）午後7時30分～午後9時
場 所	西部センター 2階集会室
会議次第	○第1回 1 開会挨拶 西部公民館 館長 中西ひとみ 2 報告 西部公民館 主事 津田祐司 ①第2次西部地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和3年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 西部町内会連絡協議会 会長 家根谷寛 ○第2回（小委員会） ・第1回会議の意見を踏まえ事務局にて素案の作成 ・小委員会にて精査、修正 ○第3回 ・後期計画（案）の承認 ※全員一致で承認

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （防災学習の推進）	【対策事業】防災講演会（学習会）・避難訓練 コロナ禍の影響もあり訓練は中止となったが、防災学習会の機会を増やし、防災に関する様々な知識を得るようソフト面の充実に努めた。
アクションプラン2 （人材の育成）	【対策事業】各種リーダー研修会 防災リーダー学習会を実施しているが、若い世代を中心とした次世代の地域を担うリーダーの育成には至っていない。
アクションプラン3 （地域の交流促進）	【対策事業】西部ふれあい祭り・天神児童館まつり 事業を通じて、世代を超えた交流の促進と地域のつながりを強めるため、西部ふれあい祭りや天神児童館まつり実行委員会に参加しているが、コロナ禍の影響により開催することはできなかった。
課題・問題点	
当地域の課題としては事業の運営に関わる人材の中に若い世代の人が少ないことが挙げられる。今後は、若い世代の方々が気軽に参画できるような環境の整備が必要である。	

課題 1	参加者の声	
	・訓練や学習会を通じて、災害に対する対応力と危機管理意識が高まる。 ・地域の大部分が津波の浸水地域であるため、この地域にとって防災対策は欠かせない課題である。	
	対策事業（案）	事業の目的
	防災講演会、学習会、避難訓練	防災意識の向上と地域の絆づくり
	事業実施後の効果予測	
	・住民が常に防災意識を持つことで、災害時の迅速な避難につながる。 ・防災講演会や学習会で学ぶことで、地域の防災力の向上につながる。 ・学びを生かすことで、災害時の混乱の軽減や避難所の円滑な運営につながる。	
課題 2	参加者の声	
	・少子高齢化、人口減少が進む中で次世代の西部地域を担う若い世代の発掘が喫緊の課題である。	
	対策事業（案）	事業の目的
	各種リーダー研修会	行事や災害時におけるリーダーの育成
	事業実施後の効果予測	
	・行事や災害時にリーダーシップを発揮する人材の育成につながる。 ・新たな人材を発掘し、育成することでこれまで続けてきた事業を継承することが可能となる。 ・事業を通じて、若い世代の住民が地域の活動に関心を持つきっかけになる	
課題 3	参加者の声	
	・子供たちにとって自分が住む地域に愛着と誇りが生まれる。 ・行事に参加していただくことで、次世代のリーダー層の発掘ができる。	
	対策事業（案）	事業の目的
	西部ふれあい祭り・天神児童館まつり	世代を超えた交流の促進
	事業実施後の効果予測	
	・世代を超えた交流を促進することで、地域住民の絆が強まる。 ・行事を通じて、自分達が住む地域への愛着と誇りが生まれる。 ・行事を通じて、次世代を担うリーダー層の発掘と育成につながる。	

西部公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和3年12月20日（月） 午後7時～午後9時
場 所	西部センター 2階集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 12名
	社会教育委員 2名（松場委員・中根委員）
	・事務局 西部公民館 2名（中西館長・津田主事） ・生涯学習課 5名（狼谷館長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事）
会議次第	- 開会挨拶 西部公民館 館長 中西ひとみ - 報告 西部公民館 主事 津田祐司 ①西部地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 - ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 - グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 - 閉会挨拶 西部町内会連絡協議会 会長 家根谷覚

地域カルテによる地域分析
・人口減少の一途を辿っている。2020年は4,772人、2040年には2,530人まで減少すると予想されている。 ・2020年の高齢化率は、35.7%。2040年には38.6%になる見込み。 ・子ども（0～14歳）や生産年齢人口（15～64歳）は減少していく見込み。 ・就業者の割合は、70.9%の方が第三次産業に従事している。市全体の統計とほぼ同じ状況。 ・要支援、要介護認定者数の割合は、市全体の統計とほぼ同じ状況。

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・ 自然環境が良い（天神崎の景観、寺社仏閣が多い） ・ 人情が温かい（挨拶、人懐っこい子供が多い） ・ 元気な高齢者が多い・子供たちの教育に地域の方々が協力的である ・ 生活環境が良い（店舗、病院、飲食店があり、便利な生活環境）
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> 〈防災対策〉 ・ 災害時の避難場所の確認と物資の状態の確認 ・ 防災訓練への参加や防災教育に取り組みたい 〈人口減少対策〉 ・ 町内会への加入促進に努めたい ・ 保護者の行事への参加を促すため、子供対象の行事を充実させたい 〈行政に関するもの〉 ・ これからの人生はボランティアに徹していきたい ・ 行政と地域の橋渡し役に徹したい
<u>課題を解決するために、自分が関われること</u> 〈防災対策〉 ・ 自主防災会の更なる充実・地域内の要支援者の把握 〈人口減少〉 ・ 町内会活動の更なる充実・世代間交流の促進 〈リーダーの育成〉 ・ 地域の行事、災害時のリーダーの育成
<u>今後5年間の目標や課題</u> ・ 防災訓練や防災教育を充実させ、安心、安全なまちづくりに努めたい ・ 地域の魅力を再発見し、地域の良さを知り、後世に伝承していきたい ・ 世代を超えた交流の機会を増やしていきたい



シンポジウムの様子

策定会議の様子

南部公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	南部公民館運営役員会 21 名
	事務局 南部公民館 2 名（押川館長、日下主事）
日 時	令和 4 年 6 月 29 日（水） 午後 7 時 30 分～午後 8 時 15 分
場 所	南部センター 集会室
会議次第	1 開会挨拶 南部公民館 館長 押川仁 2 報告 南部公民館 主事 日下智哉 ①第 2 次南部地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （地域間交流の促進）	【対策事業】地域作品展、グラウンドゴルフ大会、バスピン大会 町内会をはじめ各種団体のリーダー層を担う人材の不足が懸念されていることから、地域や世代を超えた交流の実現や、地域の活性化につながるような取組を行ってきた。
アクションプラン 2 （学社融合の更なる 推進）	【対策事業】バラの演奏会、ウォークラリー 学校と地域が連携・協力し、地域社会全体で子供を育てる環境を整えていくために、地域と共に学び合う学校づくりを目標に取り組んできた。
アクションプラン 3 （防災対策面の強化・充実）	【対策事業】防災訓練、防災に関する学習 防災訓練や学習機会を通じて住民の防災意識の向上と連帯感の強化につなげるため、学校と連携した学習を実施してきた。
課題・問題点	
公民館の避難訓練への参加者が例年少なかったことが今後の課題である。	

課題 1	参加者の声	
	・町内会や子ども会離れが進み、親同士の交流も少なくなっている。 ・公民館の行事をより活性化し、若年層や子供の参加も増やしていく。	
	対策事業(案)	事業の目的
	各種公民館事業の開催（地域、世代のニーズに対応した事業の開催）	地域間及び世代を超えた交流の実現
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。 ・住民の生きがいつくりの場を提供することができる。 ・各世代のニーズに対応した事業を開催することで、若い世代の方々が公民館事業に参画しやすい環境ができる。	
課題 2	参加者の声	
	・子供に地域のことについてもっと知ってもらいたい。 ・子供の安全を見守りたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	併設型公民館を活用した各種事業の展開	学校、地域、保護者、公民館の協働（地域全体）により子供を育てる
	事業実施後の効果予測	
	・世代を超えた交流の実現と相互の教育力の向上が図られる。 ・「地域と共に学び合う学校づくり」が実現する。 ・地域全体で子供たちを育てていくという意識の向上につながる。	
課題 3	参加者の声	
	・津波発生時の避難場所について、どこに避難すればよいのか分からない。 ・避難訓練や防災学習への参加を促進し、特に高齢者の防災意識の向上を図る必要がある。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災訓練及び防災に関する学習会の開催	防災意識の向上と地域の絆づくり
	事業実施後の効果予測	
	・住民の防災意識の向上と連帯感の強化につなげることができる。 ・災害時におけるリーダー層の育成につながる。 ・災害時の自助、共助、公助のあり方を正しく理解することができる。 ・子供たちを交えた学習機会をもつことで、学社融合の視点による防災学習の推進が実現する。	

南部公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 25 日（金） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	東部公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 13 名
	社会教育委員 2 名（尾崎委員、小山委員）
	・事務局 南部公民館 2 名（押川館長、田中主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 1 名（北尾課長）
会議次第	1. 開会挨拶 南部公民館 館長 押川仁 2. 報告 南部公民館 主事 田中昂志 ①南部地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 新屋敷町町内会 会長 阪本哲次

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は 2005 年時点で 5,651 名であった人口が 2020 年には 4,086 名となり、その後も減少する予想。 ・2020 年時点で高齢化率がおおよそ 39%、2040 年には 40%以上の高齢化率となっており、65 歳人口は増加すると予測されている。地域の 3 人に 1 人以上が高齢者になるということになる。 ・0 歳から 14 歳までの子どもの数に関しては、2020 年が 405 人に対し、2040 年予測では、339 人と大幅な減少が予想されている。 ・南部地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体の割合に比べて高い。 ・BMI や糖尿病の検査項目、コレステロール値、血圧のデータでは、男性は BMI のみ市の平均よりも上回っており、女性は血圧の項目が市の平均よりも上回っている。 ・男性の喫煙率や運動習慣、飲酒習慣の項目は市の平均よりも下回っている。しかし、20 歳から 10kg 以上の体重増加や夕食後の間食、朝食欠食の項目は市の平均よりも上回っている。女性は身体活動の項目が市の平均よりも下回っている。

グループワーク
地域の自慢できること ・近所付き合いが良い・子供の交通指導を行っている・子供に挨拶すると返ってくる ・街灯整備ができています・公共施設やお店がまとまっていて便利 ・津波以外の災害の心配が少ない・子供から大人まで楽しめる場所が多い・祭りが多い ・老人会で健康のための講習やグラウンドゴルフをしている・グラウンドゴルフが盛ん ・紀伊田辺駅、闘鶏神社、若宮神社、扇ヶ浜、たなべる、末広児童館、南部センター
地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報 ・少子高齢化・町内会役員に若い人がいない・地域組織のリーダー層の人材不足 ・町内会、子ども会離れ・ボランティアに関わる人が少ない・祭りの維持 ・空き家が多い・小売店が激減している・生活道路の車が増えた ・避難対策ができていない家庭がどれくらいあるのか・近くに避難場所がない地域もある ・子育て世代の人数を知りたい・結婚しない人が多い（どれくらいいるのか） ・住民の挨拶や声かけの実施率・子供の安全の状況を知りたい
課題を解決するために、自分が関わること ・地域の方の声を聞く ・町内会や子ども会未加入の方に、積極的に勧誘する ・避難訓練や防災学習への参加・災害について家族で話し合う、啓発活動を行う ・一人暮らしの方を定期的に訪問する・健康診断の受診を勧める ・公民館で婚活をする
今後5年間の目標や課題 ・町内会の再結成 ・公民館の行事をより活性化（婚活等）し、今後、若い層や子供も増やしていく ・町内会や公民館での避難訓練、防災学習へ積極的に参加し、防災意識をより高める ・今までの活動を継続していく ・子供の安全を見守っていききたい



策定会議の様子



シンポジウムの様子

芳養公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	芳養公民館運営委員会 15名
	事務局 芳養公民館 2名（小川館長、田中主事）
日時	令和4年9月14日（水） 午後7時30分～午後8時10分
場所	芳養公民館 大集会室
会議次第	1 開会挨拶 芳養公民館 館長 小川鏡 2 報告 芳養公民館 主事 田中昂志 ①令和3年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 ②第2次芳養地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 3 議事 ①地域の現状 ②目指すべき地域像の共有 ③重点アクションプランとその対策事業及び目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 芳養松原町内会 山本とし子

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （防災学習の推進）	【対策事業】防災講演会、防災訓練 住民が多様かつ最新の知識を得ることができる講演会を開催してきたことにより、日頃の備えの大切さを感じてもらうことができ、防災・減災に対する意識の向上につながった。
アクションプラン2 （教育講演会の開催）	【対策事業】教育講演会 地域で子供を育てるという意識を持ってもらえるような講演会や取組を実施してきたことにより、子供たちが、楽しいと感じる学校づくりのために、地域・学校がどのような工夫をし、協働することが必要なのかということについて話し合うことができた。
アクションプラン3 （環境美化活動の実施）	【対策事業】施設めぐり 環境美化に関心を持ってもらえるような事業を実施したことにより、地域の環境問題に対する認識を持ってもらうことができた。
課題・問題点	
地域の活動に若い世代がより参加してもらえるような取組が必要である。	

課題 1	参加者の声	
	・交流を深める取組を行うことが大切である。 ・地域住民の健康に対する意識を高めていきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	体育事業・文化事業の開催	地域間・世代間交流の促進
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えて交流を図ることにより、つながりを強めることができる。 ・健康増進意識や学習意欲の向上につながる。	
課題 2	参加者の声	
	・地域の人にも学校へ来てもらうきっかけになる。 ・学校だけでなく、地域でも子供たちを育てていくことが大切である。	
	対策事業(案)	事業の目的
	芳養ふれあい教室ほか学社融合事業	学校と地域とのつながりを深める
	事業実施後の効果予測	
	・地域の方と子供たちとの「ナナメ」の関係ができる。 ・地域の方が学校に関心を持つようになる。 ・子供たちが地域と関わるきっかけになる。 ・地域の方の生きがいになる。	
課題 3	参加者の声	
	・地域全体で人権や防災への意識を高めていかなければいけない。 ・講演会等を通じて、様々なことを学んでいきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	人権学習会、防災講演会ほか 学習会の開催	人権意識や防災意識の向上 地域住民の学習ニーズへの対応
	事業実施後の効果予測	
	・人権学習会や防災講演会を開催することで、住民の人権意識や防災意識を高める。 ・教育、環境、情報、交通、少子高齢化等の分野において、地域のニーズに合った学習会を開催することにより、住民の学習意欲を高める。	

芳養公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 23 日（水） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	芳養公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 14 名
	社会教育委員 2 名（中根委員、松場委員）
	・事務局 芳養公民館 2 名（小川館長、宮畑主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 2 名（北尾課長 林主事）
会議次第	1. 開会挨拶 芳養公民館 館長 小川鏡 2. 報告 芳養公民館 主事 宮畑直弥 ①芳養地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 芳養公民館協力委員会 委員長 山本とし子

地域カルテによる地域分析
・ 2020 年時点で高齢化率がおおよそ 30%前後で推移していることから、本地域の約 3 人に 1 人が高齢者であることが読み取れる。また、15 歳以上 64 歳以下の主な労働力となる生産年齢人口は、2010 年に 3,760 名であったが 2040 年には 3,325 名に減少する予想。 ・ 児童生徒数の推移は、芳養小学校はやや減少傾向にあり、大坊小学校はやや増加傾向、明洋中学校では減少傾向と、全体としては少子化が進んでいる。 ・ 芳養地域の就業者の割合は、田辺市全体に比べて第二次産業の割合が多く、第三次産業の割合が少ない。 ・ 芳養地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体よりも下回っている。 ・ コレステロール値、血圧のデータでは、女性は市の平均よりも下回っている。 ・ 男性の喫煙率と夕食後の間食の項目は、市の平均よりも下回っている。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・海、山、川があり、自然と触れ合うことができ、梅やミカン、シラスが有名。
- ・地域の人々が優しく親切で、元気があり、近所との付き合いや交流がある。
- ・高速道路へのアクセスが良く、住みやすい。
- ・地域の人々が学校に協力的で、子供たちも挨拶が元気で、仲が良い。

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・町内会や子ども会等の役員になる人材が見つからない。
- ・道が狭く、歩道も少ないため、自転車等の通行が危ない。
- ・高齢者の一人暮らしが増えている中で、スーパーが少なく、交通手段も乏しい。
- ・地域住民の防災意識がどのくらいあるのか。

課題を解決するために、自分が関われること

- ・町内会で交流を深める取組を行う。
- ・独居の方の見回りや、移動スーパーの誘致。
- ・公民館で学習会を開く。

今後5年間の目標や課題

- ・気軽に集まって話や相談ができる場や機会を増やしていく。
- ・学校に地域の方が集まることのできる機会や場を提供する。
- ・公民館で様々な学習会を開き、住民の学習意欲を高める。
- ・地域の特産品をより広めていく。
- ・コミュニティバスや地域タクシーの導入、移動販売を充実させていく。



策定会議の様子



シンポジウムの様子

稲成公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	稲成公民館運営協力委員会 21 名
	事務局 稲成公民館 2 名（倉谷館長、津田主事）
日 時	第 1 回 令和 4 年 5 月 19 日（木）午後 7 時 30 分～午後 9 時 第 2 回 令和 4 年 10 月 3 日（月）午前 9 時～午前 11 時（小委員会） 第 3 回 令和 4 年 10 月 13 日（木）午後 7 時～午後 9 時
場 所	稲成小学校 コンピューター室
会議次第	○第 1 回 1 開会挨拶 稲成公民館 館長 倉谷修治 2 報告 稲成公民館 主事 津田祐司 ①第 2 次稲成地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 稲成町内会 会長 山田能久 ○第 2 回（小委員会） ・第 1 回会議の意見を踏まえ事務局にて素案の作成 ・小委員会にて精査・修正。後期計画（案）の完成 ○第 3 回 ・後期計画（案）の公表 ※全員一致で承認

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （交流事業の推進）	【対策事業】合同運動会 学校と地域が運動会を通じて交流を促進するため、平成 28 年度からコミュニティ運動会を開催。相互の団結意識の向上や運営側の負担軽減など一定の成果を上げることができた。
アクションプラン 2 （防災学習の推進）	【対策事業】防災人権学習会の開催 防災意識の向上と公助だけに頼ることなく、自助・共助の理念のもと災害時にお互いに助け合うことのできる地域を目指すため開催した。今後も訓練や学習会を通じて、新たな課題の発見と新しい学びにつなげるため、継続していきたい。
アクションプラン 3 （人材発掘・後継者育成）	【対策事業】館報の充実 転入者も気軽に地域の活動に参画しやすい環境整備を行い、次世代の地域を担うリーダーの発掘と育成が課題である。
課題・問題点	
行事への参加者や運営スタッフの固定化が課題である。今後は、転入者も含め誰もが気軽に参画できる環境の整備と行事や災害時にリーダーシップを発揮することができる人材の発掘と育成が課題である。	

課題 1	参加者の声	
	・コロナ禍の影響によりしばらく開催できていないが、世代を超えた交流を図るため今後もコミュニティ運動会を開催していきたい。	
	対策事業（案）	事業の目的
	合同運動会	学校と地域のつながりを維持させる
	事業実施後の効果予測	
	・事業を通じて世代を超えた交流を図ることで、住民の連帯感が生まれる。 ・事業を実施することで地域のリーダーとなり得る人材の育成につながる。	
課題 2	参加者の声	
	・訓練や学習会を通じて災害への対応力と危機管理意識の向上につながる。 ・災害時におけるリーダーの育成が必要。	
	対策事業（案）	事業の目的
	防災人権学習会の開催	防災意識・知識の向上 自主的な活動を開始するきっかけづくり
	事業実施後の効果予測	
	・住民の防災意識の向上と自助・共助の理念による相互の連帯感の強化につながる。 ・災害時におけるリーダーの育成と自主防災組織の活性化につながる。 ・自助・共助・公助の在り方を正しく理解することができる。 ・地域の新たな課題を発見し、新しい学びを生みだすことができる。	
課題 3	参加者の声	
	・公民館だよりもに町内会の活動の様子や公共工事の進捗状況などを取り上げてほしい。	
	対策事業（案）	事業の目的
	館報の充実	人材を発掘・育成する
	事業実施後の効果予測	
	・公民館の行事だけでなく町内会の取組を掲載することで、多くの住民に町内会の活動を知ってもらい、町内会に関心を持っていただくことができる。 ・充実した情報を発信することで、交流の促進を図ることができる。	

稲成公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年3月10日（木） 午後7時～午後9時
場 所	田辺市民総合センター 4階交流ホール
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 25名
	社会教育委員 2名（近藤委員、砂野委員）
	・事務局 稲成公民館 2名（倉谷館長、津田主事） ・生涯学習課 6名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、岡本主査、澤本主事） ・自治振興課 1名（北尾課長）
会議次第	1. 開会挨拶 稲成公民館 館長 倉谷修治 2. 報告 稲成公民館 主事 津田祐司 ①稲成地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 稲成町内会 会長 山田能久

地域カルテによる地域分析
・市内の他の地域と比べて人口減少が緩やかな状況である。 ・市内の他の地域と比べて高齢化率は低いが、今後の高齢化率は緩やかに上昇していく。 ・要支援、要介護認定者数の割合は少なく、元気な高齢者が多い。 ・BMIや糖尿病の治療を行う上での指標となるHbA1cの数値が市全体の数値に比べて高く、糖尿病などの生活習慣病に罹患している人や予備軍に該当する人が多い。（特に男性が多い）

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・生活環境が良い（買い物が便利、交通事情が良い、市の中心部に近い） ・豊かな自然に恵まれている・文化財に恵まれている（高山寺、稲荷神社など） ・農業が盛ん・住民同士のつながりが強い・若い世代の人が多い ・人材の宝庫（地域人材の知識や経験が稲成小学校の学習発表会で活用されている）
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> 〈住民間の交流〉 ・従来から住んでいる人と転入者との交流がない（コミュニケーションを図ることが課題） ・少子高齢化が進み、地域の行事が停滞している・町内会加入率の低下 ・各団体に女性の役員が少ない（女性の声が届きにくい） 〈交通〉 ・交通量の増加に伴い、交通事故の増加が心配（交通マナーの低下） ・通学路に危険な箇所が多い・公共交通に恵まれていない 〈その他〉 ・耕作放棄地が増加（増加に伴いゴミの不法投棄が増えた） ・災害時の浸水が心配・有害鳥獣対策
<u>課題を解決するために、自分が関われること</u> ・住民同士で積極的な声かけを行う・子供の見守りのため、街頭に立つ ・依頼があれば自分でできることは積極的に協力する
<u>今後5年間の目標や課題</u> ・地域活動に参加しやすい環境を整える・安心、安全なまちづくりに努める ・稲成は広大な地域であり、まずは各区内でのつながりを構築していく ・各区での防災意識の向上（各区で災害の様相が異なる）



シンポジウムの様子



策定会議の様子

秋津公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	秋津公民館委員会 18 名
	事務局 秋津公民館 2 名（木村館長、中島主事）
日 時	令和 4 年 6 月 17 日（金） 午後 7 時～午後 8 時 30 分
場 所	秋津公民館 2 階大集会室
会議次第	1 開会挨拶 秋津公民館 館長 木村周平 2 報告 秋津公民館 主事 中島野乃世 ①第 2 次秋津地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 秋津町内会 会長 中田康彦

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （防災学習会の推進）	【対策事業】 H U G（避難所運営ゲーム）、体験型防災事業 住民の防災意識の向上、住民同士の連携づくりのために公民館事業 としての防災学習会を行っていきたい。
アクションプラン 2 （人材発掘）	【対策事業】 地域ボランティア人材バンク 公民館組織内での情報共有や人材の把握、各事業を通してつながり を深めるため、地域ボランティア人材バンクを設立した。
アクションプラン 3 （広報活動手段 の検討）	【対策事業】 公民館報内でコーナーを作る、広報委員会設立 秋津地域の情報を幅広い世代に知ってもらうために、チラシの作成 や公民館公式 L I N E アカウントでの情報発信を行ってきた。
課題・問題点	
公民館事業としての具体的な防災学習会の開催には至らなかった。 地域ボランティア人材バンクの登録者を増やすことが今後の課題である。 対策事業の一つである、「広報委員会」は実現していない状態である。	

課題 1	参加者の声	
	・町内会の防災班に名前は入っているが、実際に災害が起こった時にどう動いていいかわからないので身近にできる体験防災訓練会を公民館で開催してみてもどうか。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災学習会・体験型防災事業	防災意識の向上・住民同士の連携作り
	事業実施後の効果予測	
	・防災意識を向上させ、地域住民自らがどうすべきか考えるきっかけとなる。 ・地域の実情に応じた防災学習会を開催することで、いざというときの災害への対応や地域の連携力を高める。	
課題 2	参加者の声	
	・ボランティア人材バンクを設立することができたのなら活用していくべき。 ・子供たちの発表できる場を設けることが、リーダーの育成につながる。	
	対策事業(案)	事業の目的
	地域人材が活躍できる場の提供 (学社融合の推進)	地域内の人材の把握と確保 地域を担うリーダーの育成 「ボランティア人材バンク」の活用
	事業実施後の効果予測	
	・地域人材を把握することで、各事業を通してつながりを生むきっかけとなる。 ・公民館活動、学社融合事業等で人材が必要な場合の基礎となる。 ・地域人材が、公民館活動へ参加するきっかけとなる。	
課題 3	参加者の声	
	・資格を持つ地域住民を見つけ学習会等を開催すれば、つながりが広がるきっかけになると思う。 ・公民館と町内会等が連携し、事業を展開していくことで交流の機会が増えていくと思う。	
	対策事業(案)	事業の目的
	公民館を拠点とした住民ニーズに合った講座・学習会等の開催及び広報活動の充実	地域間・世代間の交流 地域の方々のつながりを深める 若い世代への公民館事業の周知
	事業実施後の効果予測	
	・各世代のニーズに対応した学習会・講座などの事業を開催することで、公民館利用者が増え、世代を超えた交流を図ることができる。 ・若い世代の方々が公民館事業参画のきっかけになる。 ・広く情報発信をすることで公民館事業を知ってもらい参加者増加につなげる。	

秋津公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年3月29日（火） 午後7時～午後9時
場 所	秋津公民館 2階大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 10名
	社会教育委員 2名（加藤委員、坂本委員）
	・事務局 秋津公民館 2名（木村館長、中島主事） ・生涯学習課 4名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査）
会議次第	1. 開会挨拶 秋津公民館 館長 木村周平 2. 報告 秋津公民館 主事 中島野乃世 ①秋津地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 秋津町内会 会長 中田康彦

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で3,027名であった人口が2025年には3,063名となり、2015年をピークに増加しているが、その後減少する予想となっている。 ・0歳から14歳までの子どもの数に関しては、2020年が488人に対し、2040年予測では、572人と微増することが予想されている。 ・秋津地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体の割合より下回っている。 ・秋津地域では、第三次産業に従事されている方が多く、市の平均とほぼ同じであり、その中でも卸売業・小売業、医療・福祉関係の従事者が多い。 ・男性の喫煙率は市の平均よりも上回っているが、女性の喫煙率は市の平均よりも下回っている。 ・秋津公民館区の子供たちは児童・生徒数の多い小中学校に通っているため、教育機関の建物が充実している。また農協関係の施設や医療機関も充実している。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・道が整備され広くなってきた・近くに病院や学校、保育所がある・自然と調和がある
- ・子供たち（特に小学生）があいさつをきちんとできる・世帯数が増えている
- ・小さい子供もいるマンションが増えてきた（子育て世帯の増加）
- ・隣近所、声かけが出来る場所・転入者を受け入れてくれる
- ・色々な活動をしている・交流する機会が多い・祭りなど伝統行事がある
- ・町内会が活発・防災班を作っている・避難場所が決まっている
- ・近所の目があるので、防犯面が良い

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・交通量が増え、危険度も上がっている・小学校前の道が狭く、暗い
- ・公園など子供の遊び場が少ない・災害時、要支援者が多い・堤防が長い
- ・町内会加入率減・同じ人で役をする・子ども会の消滅
- ・店が少ないので、歩いて行けない・バスがない
- ・地域の歴史・自分の地区以外の地域探検・各区別の年齢構成
- ・子供との交流イベント・免許返納者の人数

課題を解決するために、自分が関われること

- ・若い世代が参加しやすい町内会づくり・災害後の役員同士の話し合い
- ・防災訓練や学習会、行事やイベントへの参加・買い物代行・子育て世代の交流の場づくり
- ・近隣住民、子供との積極的なコミュニケーション・月一回の高齢者と子供の食事会
- ・指導者の呼びかけ・町内会加入の呼びかけ・子供たちと作業できる場
- ・地元チームへの参加

今後5年間の目標や課題

- ・防災学習の強化
- ・高齢者、子供たちとの交流
- ・買い物難民をつくらない
- ・若い世代に地域についての関心を持ってもらう
- ・地域の自然について子供たちに教える



シンポジウムの様子



公民館行事「餅つき大会」の様子

万呂公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	万呂公民館運営委員会 21名
	事務局 万呂公民館 2名（向井館長、橘主事）
日 時	第1回 令和4年6月9日（木） 午後7時～午後8時30分 第2回 令和4年6月22日（水） 午後7時～午後7時20分 第3回 令和4年9月11日（日） 午後7時～午後7時15分
場 所	第1回 万呂公民館 大集会室 第2回 万呂公民館 研修室（参加者：9名） 第3回 万呂小泉町内会館（参加者：11名）
会議次第	○第1回 1 開会挨拶 万呂公民館 館長 向井洋一 2 報告 万呂公民館 主事 橘亜門 ①第2次万呂地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和3年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 万呂公民館 館長 向井洋一 ○第2回・第3回 ・変更点も含め、改めて委員に意見聴取

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （防災学習の推進）	【対策事業】防災学習会 住民の防災意識の向上と連帯感の強化を図るため、防災学習会を実施してきた。
アクションプラン2 （万呂地域に関する 学習機会の提供）	【対策事業】戦争時の万呂の様子・万呂の獅子舞等の講演 万呂地域の歴史や文化に関する学習会の開催を計画していたが、具体的な行事等の実現には至らなかった。
アクションプラン3 （地域交流の推進）	【対策事業】けん玉教室、グラウンドゴルフ大会、秋の総合展示会 住民同士のつながりが希薄化していることを踏まえ、地域や世代を超えた交流や、地域の活性化につながる取組を実施してきた。
課題・問題点	
公民館活動の協力者が高齢化しており、今後の事業継続が危ぶまれる。また、学習会等を開催しても、参加者が集まらないことが課題として挙げられる。	

課題 1	参加者の声	
	・万呂地域の住民は防災意識が低いように感じられる。 ・「生命を守る」という言葉を入れた方が良いのではないか。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災学習会・防災訓練	防災意識の向上
	事業実施後の効果予測	
	・住民自ら「命を守る」視点で常に防災を意識することで、災害時の迅速な避難につながる。 ・災害時または避難所運営でリーダーシップを執れる人材の育成につながる。 ・郷土愛の育成につながる。	
課題 2	参加者の声	
	・住民同士のつながりが希薄化している。 ・若い世代の参加者を増やすためには、子供対象の行事を増やすべきだと思う。	
	対策事業(案)	事業の目的
	各種公民館事業（子供対象事業等）の開催	地域交流の促進
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・幅広い世代の方々を対象とした各種事業を実施することで住民のつながりが強化され、地域が活性化される。 ・多様な人との新たなつながりが生まれ、つながりが広がることで学びや実践活動につながる。	
課題 3	参加者の声	
	・地域の方々の経験や知識を子供たちに伝えることで、地域に愛着を持つ子供が増える。	
	対策事業(案)	事業の目的
	地域の人材（人材バンク）を活用した事業の展開	学校、家庭、地域の教育力の向上及び子供の健全育成
	事業実施後の効果予測	
	・地域住民の方々の経験や知識を学校教育や公民館活動等に生かすことで、相互の教育力の向上と住民の方々の自己実現や生きがいがいづくりにつながる。 ・世代間交流につながる事業を展開することで、子供たちの社会性や協調性を醸成することができる。	

万呂公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和3年12月6日（月） 午後7時～午後9時
場 所	万呂コミュニティセンター 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 17 名
	社会教育委員 3 名（九鬼委員、近藤委員、坂本委員）
	・事務局 万呂公民館 2 名（向井館長、小林主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事）
会議次第	1. 開会挨拶 万呂公民館 館長 向井洋一 2. 報告 万呂公民館 主事 小林大斗 ①万呂地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 万呂町内会 会長 米田秀彦

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で5,619名であった人口が2020年には4,709名となり、その後も減少する予想。 ・2020年時点で高齢化率が約30%、2040年には約40%の高齢化率となっており、65歳人口は増加すると予測されている。地域の3人に1人以上が高齢者になるということになる。 ・0歳から14歳までの子どもの数に関しては、2020年が608人に対し、2040年予測では、294人と大幅な減少が予想されている。 ・万呂地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体の割合に比べかなり低い。 ・BMIや糖尿病の検査項目、コレステロール値、血圧のデータにおいて、万呂地域では、男性が全ての項目において市の平均を下回っている。 ・男性の喫煙率と20歳から10kg以上の体重増加の項目は、市の平均を大きく下回っている。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 自然が豊か。(土手が綺麗)
- ・ あいさつをし合える関係がある。(近所の仲が良い)
- ・ 交通の便がいい。
- ・ スーパーや病院が近くにあり、生活しやすい。
- ・ 万呂の獅子舞 (市の文化財)

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 子ども会、町内会離れしている。
- ・ 地域活動へ参加する人が決まっている。
- ・ 横のつながりが希薄になっている。
- ・ 災害時の高齢者の避難。
- ・ 高齢者が多い地域であるため、敬老会の在り方についての意見を聞きたい。
- ・ 町内会や子ども会に入る人数について、どのくらいの割合か。

課題を解決するために、自分が関われること

- ・ 子ども会、町内会の実体験の話をして、そんなに大変ではないということを知ってもらう。
- ・ 町内の人と関わりを持てる場に参加する。(公民館・町内会行事)
- ・ 町内会役員になって各問題に取り組む。

今後 5 年間の目標や課題

- ・ 交通事故防止。
- ・ 公園の整備。
- ・ アンケート調査を行い、公民館、町内会、子ども会、獅子舞保存会を含めた団体で魅力的な活動 (万呂地域を知ってもらう、関心を持ってもらえるような取組) を行う。



策定会議の様子



シンポジウムの様子

新庄公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	新庄公民館運営委員会 32 名
	事務局 新庄公民館 2 名（小山館長、田上主事）
日 時	令和 4 年 6 月 1 日（水） 午後 7 時 30 分～午後 8 時 40 分
場 所	新庄公民館 大集会室
会議次第	1 開会挨拶 新庄公民館 館長 小山裕史 2 報告 新庄公民館 主事 田上拓未 ①第 2 次新庄地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （防災）	【対策事業】新庄地震学（炊出し体験） 新庄中学校が実施する新庄地震学において、新庄漁協女性部の協力の もと、かまどベンチを活用した炊き出しを実施してきた。実際に 体験しながら防災について学ぶことで、大人も子供も楽しみながら 学ぶことができた。
アクションプラン 2 （人材育成）	【対策事業】ぎおんさんの夜見世学習会 地域の伝統行事である「ぎおんさんの夜見世」を子供たちに伝える ため、幼小中にて学習会を実施してきた。新型コロナウイルス感染 症が拡大してからも子供たちの作品を公民館に展示する等、伝統文 化を絶やすことのないよう取り組んだ。
アクションプラン 3 （交流の場）	【対策事業】新庄夏まつり大会 年々希薄化してきている地域内の交流を取り戻すため、子供から大 人まで幅広い世代が交流することのできる場となるよう新庄夏ま つり大会を実施してきた。
課題・問題点	
各行事の協力者が高齢化しており今後の事業継続が危ぶまれている。また、公民館行 事全体においても年々参加者が減少傾向にある。	

課題 1	参加者の声	
	・ 海拔の低い土地が多く、津波に対する備えが重要。 ・ 防災教育等、津波が発生した際に生き残るための備えをしていきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災学習会	災害時の緊急対応に備える
	事業実施後の効果予測	
	・ 災害時の緊急対応に対する予備知識を蓄える。 ・ 事業を通して地域の関係を密にし、いざというときの地域連携力を高める。	
課題 2	参加者の声	
	・ 子供たちが郷土愛を持てるようにしていく必要がある。 ・ 伝統行事を中止にしたり、参加者を減少させることのないよう継続していく。	
	対策事業(案)	事業の目的
	「新庄ぎおんさん夜見世」学習会	学校と地域の連携を強化する
	事業実施後の効果予測	
	・ 伝統行事（新庄ぎおんさんの夜見世）を子供たちに伝えることにより、次世代へ継承・保存していく。 ・ 学校と地域が積極的に関わることにより、地域全体で子供を育てるという意識が高まる。	
課題 3	参加者の声	
	・ 以前に比べて、住民同士のつながりが希薄になっている。 ・ 今まで以上に地域の園児、児童と交流を深めていく必要がある。	
	対策事業(案)	事業の目的
	新庄夏まつり大会	地域交流の場を提供する
	事業実施後の効果予測	
	・ 小さな子供から高齢者までが多く集い、楽しむことにより、人的交流を促し、地域の連携力を強化させる。 ・ 多くの人が集まる場にて、地元の農産物や海産物を PR することで、郷土についての理解を深めることができる。	

新庄公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 22 日（火） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	新庄公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 19 名
	社会教育委員 2 名（稲垣委員、佐久間委員）
	・事務局 新庄公民館 2 名（小山館長、田上主事） ・生涯学習課 3 名（狼谷課長、尾崎係長、遠山主査）
会議次第	1. 開会挨拶 新庄公民館 館長 小山裕史 2. 報告 新庄公民館 主事 田上拓未 ①新庄地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 新庄公民館 運営委員 橘智史

地域カルテによる地域分析
・ 2005 年に 6,504 人であった人口が 2015 年には 6,261 人となり、その後、予測では緩やかに減少し、2040 年には 6,090 人まで減少すると予測されている。 ・ 2015 年時点で高齢化率が 29.5%、2040 年には 37.7%の高齢化率と予測されている。 ・ 新庄地域は第三次産業に従事されている方が多く、特に医療・福祉関係の従事者が非常に多い。 ・ 特定健康検査の結果において、新庄地域では女性の方が全ての項目において市の平均以下となっている。問診結果によると特に運動習慣や身体活動のない女性が少なく、こうしたことが健康検査の結果にも表れていると思われる。 ・ 公民館サークルが全部で 16 サークルあり、市内の他の公民館と比較しても非常に多く、住民の自主的な学習活動が盛んな地域である。 ・ 幼稚園、小中学校などの教育施設、紀南病院、たきの里などの医療・福祉施設など様々な施設に加え、神島や鳥ノ巣半島泥岩岩脈などの地域資源が数多くある。

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・鳥ノ巣や約 14km の海岸等、豊かな自然に恵まれている。 ・交通網（道路）が充実しており、立地が良い。田辺市内、上富田、白浜へのアクセスが良い。紀伊新庄駅があり、白浜空港にも近い。将来的には文里湾架橋も完成する。 ・愛郷会の助成のもと、各学校の施設、書籍が豊か。愛郷会の財産が多くある。 ・ビッグU、新庄総合公園、紀南病院等、多種多様な施設がある。 ・ぎおんさんの夜見世や夏まつり大会等の伝統行事がある。 ・人がやさしい。各地域に調整役のリーダーが多い。
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> ・地元へ残る人が少なく、県外で仕事につく人が多い。就職ができる大手企業が欲しい。 ・地域外からの住民が増え、住民同士のつながりが希薄になってきている。 ・海拔の低い土地や山の斜面の土地が有効利用できていない。 ・地域の文化遺産や農水産物を地域内の人がどれくらい知っているのかを知りたい。 ・新庄に住み、新庄で働いている人がどれくらいいるのかを知りたい。 ・町内会の加入率、独居の方の割合、婚姻率、離婚率を知りたい。
<u>課題を解決するために、自分が関わること</u> ・子どもたちの見守り、声かけ。・一人ひとりが地域の役割を担う。 ・住居の高台への移転や防災教育。津波が発生した際に生き残るための備えをする。 ・若い世代の方がまず町内会単位の活動に参加する。 ・夏まつり等で地元の農水産物をアピールする。
<u>今後 5 年間の目標や課題</u> ・子供たちが郷土愛を持てるようにする。・災害に強いまちにしていける。 ・子ども会、町内会への参加者の確保と役割分担。 ・昔から続けてきた伝統行事を中止、縮小させることのないよう継続していく。 ・海産物、農産物を知り、住民全員で地域の特産品の宣伝をする。 ・今よりもさらに、保育所、幼稚園、小中学校の園児、児童と交流を深める。

三栖公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	三栖公民館運営委員会 4名
	事務局 三栖公民館 2名（大倉館長、浦野主事）
日 時	令和4年11月21日（月） 午前10時～午前11時
場 所	三栖公民館 大集会室
会議次第	1 開会挨拶 三栖公民館 館長 大倉日幸次 2 報告 三栖公民館 主事 浦野泰之 ①第2次三栖地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和3年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 三栖町内会 副会長 那須敏朗 ◎新型コロナウイルス感染症の感染対策として、運営委員会の規模を縮小し、かつ会議時間も短縮して実施。参加者は、公民館長が運営委員の中から6名の委員を指名し招集。うち4名が出席。

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （歴史・文化の顕彰）	【対策事業】三栖風土記の改訂 風土記については、後に新たに判明したこと等もあり、今後も調査を継続し加筆修正を継続していくことが必要である。
アクションプラン2 （学社融合の推進）	【対策事業】史跡巡り 大人も子供も地域に愛着が持てるようになる等の効果が期待できるが、文化委員会の高齢化が問題である。
アクションプラン3 （交流の場づくり）	【対策事業】体育・文化事業の開催 三栖地域の特徴でもある人口増（転入者増）に対応するための交流の機会確保が求められている。
課題・問題点	
新型コロナの感染状況も見極めながら、感染対策を取りつつ実施できる事業を実施していくことが重要である。	

課題 1	参加者の声	
	・衣笠山、高地山等の史跡があり、それらを今後に残していきたい。 ・地域の歴史や文化を学ぶ機会が少ないように感じる。	
	対策事業(案)	事業の目的
	史跡の保全 熊野古道（三栖街道）調査と記録 風土記の改訂	地域の歴史・文化の記録、保存、継承
	事業実施後の効果予測	
	・地域の歴史や文化を学ぶことで、地域の良さを知ることができる。 ・学社融合など世代間交流につながる。 ・伝統文化の継承や史跡の整備活動などへの意識向上につながる。	
課題 2	参加者の声	
	・学校と地域が一体となった地域を目指していきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	児童園児を対象の史跡学習 S D G s の基本を学ぶ機会の確保	地域の歴史、文化、自然の学び S D G s の理解と実生活での実践
	事業実施後の効果予測	
	・地域の方（学校外部の人材）から地域のことを学ぶことができる。 ・地域の歴史、文化を知ることによって地域に愛着を持てるようになる。 ・学校と地域が連携し、世代を超えてS D G s の基本を学ぶ機会の確保。	
課題 3	参加者の声	
	・世代間交流の機会を増やしたい。 ・転入者も多いため、地域住民同士がコミュニケーションを取る機会を作る。	
	対策事業(案)	事業の目的
	文化・体育事業の開催	地域間世代間の交流
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・健康増進や学習意欲の向上につながる。	

三栖公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年3月15日（火） 午後7時～午後9時
場 所	三栖公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 18名
	社会教育委員
	・事務局 三栖公民館 2名（大倉館長、橘主事） ・生涯学習課 4名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、澤本主事） ・自治振興課 1名（北尾課長）
会議次第	1. 開会挨拶 三栖公民館 館長 大倉日幸次 2. 報告 三栖公民館 主事 橘亜門 ①三栖地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. 個人ワーク テーマ：地域の自慢や課題について考える 5. 講評 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 6. 閉会挨拶 三栖町内会 会長 梅田泰司

地域カルテによる地域分析
・2005年時点で3,595名であった人口が2020年には4,460名。その後も増加が予想されている。日本全国で人口減少が問題視されているが、それに反して三栖地域では今後人口が増加することが予想される。 ・高齢化率は、近年20%前後で推移し、ほぼ横ばい。15歳以上64歳以下の主な労働力となる生産年齢人口は、2005年に734名であったが2040年には約2.1倍となり1,549名と予測されている。 ・高齢者のみではなく、全ての世代で人口増加が予想されることから、子供を対象とした取組や行事も充実させる必要があると考えられる。 ・就業者における産業別の割合は、梅の産地であるということもあり、第一次産業の就業者の割合が市全体の割合の約2倍となっている。 ・LDLコレステロールは男性が市の平均を13.2%大きく上回っている。 ・喫煙者男性は、市の平均を6.5%上回っている。 ・運動習慣なしの女性は市の平均を5.8%上回っている。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・人柄(梅採り体験、七夕、獅子舞など協力的な方が多い)
- ・温暖な土地(野菜や果実が育ちやすい地域)
- ・人口が増え、活気のある地域である。
- ・小学校、中学校、幼稚園、公民館、J A、郵便局が比較的近くに集まっている。
- ・梅の収穫体験を通して、三栖地区の主産業である梅づくりについて学ぶことができる。

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・城山台から埴田の信号に下ってくる道がとても危険である。(過去にも大きな事故が発生) 何らかの取組で子供たちの安全を確保する必要がある。
- ・地域に住む 20 代、30 代の若者の数、地域で働く 20 代、30 代の若者の数、若い子育て世代の数、その人たちが地域でしたいこと、できること、一緒にしたいこと、困っていること。
- ・世代間交流の機会をもっと増やしたい。(高齢者や地域の方々、転入の方々との交流)
- ・三栖川は安全なのか。泳いだり魚を捕ったりできるのか。

課題を解決するために、自分が関われること

- ・幼稚園の行事として、地域の方々との交流機会を考えていくこと。
- ・命は大切にしなければいけないということを伝え続けることや、警察の方を招き、交通安全教室を今以上に実施していきたい。
- ・小学校と子供たちと地域の方々とのつながりを作っていく。

今後 5 年間の目標や課題

- ・子育てしやすい地域、学校と地域が一体となった地域、顔見知りが多い地域を目指していきたい。
- ・園児数を増やす。(地域に見守られていることなどを実感する子供が増えれば、園児数増加につながるのではないかと)
- ・井戸端会議ができる場づくり。
- ・公民館、学校等を中心に横のつながりを強めていきたい。(レクリエーション等へ呼びかけ、大人が知り合うことで子供たちにもよい影響が表れるのではないかとと思う。)



シンポジウムの様子



策定会議の様子

長野公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	長野公民館運営委員会 4 名
	事務局 長野公民館 2 名（米本館長、浦野主事）
日 時	令和 4 年 11 月 22 日（火） 午前 10 時～午前 11 時
場 所	長野町内会館「清瀧」会議室
会議次第	1 開会挨拶 長野公民館 館長 米本憲市 2 報告 長野公民館 主事 浦野泰之 ①第 2 次長野地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 長野町内会 会長 茶端豊 ◎新型コロナウイルス感染症の感染対策として、運営委員会の規模を縮小し、かつ会議時間も短縮して実施。参加者は、公民館長が運営委員の中から 5 名の委員を指名し招集。うち 4 名が出席。

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （歴史・文化の顕彰）	【対策事業】 みんなが語り部事業 地域の歴史や文化について学び、文化・伝統の継承や史跡等の整備にも努め、語り部のように地域外への発信ができるようになることを目的に各種事業に取り組んできた。
アクションプラン 2 （交流を深める）	【対策事業】 体育・文化事業の開催 少子高齢化が進み住民相互の交流の機会が減少する中で、地域全体が協力しながら交流の機会を少しでも増やし交流を深めていくことを目的としている。
アクションプラン 3 （学社融合）	【対策事業】 ほたる学習・ひかりの館との連携 地域社会で子供たちを育てるという意識を大切にして取り組んできた。
課題・問題点	
今後、人口減少にどう対応していくかということが各プラン共通の課題となっている。	

課題 1	参加者の声	
	・地域の歴史や文化を次の世代に残していきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	史跡の保全 熊野古道の整備	地域の歴史・文化の保存継承
	事業実施後の効果予測	
	・地域の歴史や文化を学ぶことで、地域の良さを知ることができる。 ・地域内における文化的景観の維持保存。 ・伝統文化の継承や史跡の整備活動などへの意識向上に繋がる。	
課題 2	参加者の声	
	・ホタル学習は、地域と学校が連携する有益な学社融合の取組。今後も推進したい。 (学校)	
	対策事業(案)	事業の目的
	学社融合推進協議会を核とした取組 地域と連携したホタル学習 SDGsの基本を学ぶ機会の確保	地域の産業や自然等の学び 地域資源と人材を活用した学社融合 SDGsの理解と実生活での実践
	事業実施後の効果予測	
	・地域内の産業や人材に触れ学ぶことで地域への理解を深める。 ・地域の歴史、文化を知ることによってふるさとに愛着を持てるようになる。 ・学校と地域が連携し、世代を超えてSDGsの基本を学ぶ機会を確保していく。	
課題 3	参加者の声	
	・夏のスポーツ行事等、開催方法をあらためて考えることも必要。(多数)	
	対策事業(案)	事業の目的
	文化・体育事業の開催	地域間世代間の交流
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・健康増進や学習意欲の向上に繋がる。	

長野公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年3月9日（水） 午後7時～午後9時
場 所	長野町内会館 清瀧
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 18名
	社会教育委員
	・事務局 長野公民館 2名（那須館長、橘主事） ・生涯学習課 4名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査） ・自治振興課 2名（北尾課長、土屋主事）
会議次第	1. 開会挨拶 長野公民館 館長 那須勝美 2. 報告 長野公民館 主事 橘亜門 ①長野地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. 個人ワーク テーマ：地域の自慢や課題について考える 5. 講評 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 6. 閉会挨拶 長野町内会 会長 茶端豊

地域カルテによる地域分析
・2005年時点で889名であった人口が2020年には588名。その後も減少。 ・2020年の高齢化率は47.8%、2030年には51.5%と、高齢化率は年々上昇しており、2030年には長野地域の2人に1人が高齢者となることが予想されている。 ・15歳以上64歳以下の主な労働力となる生産年齢人口は、2005年に479名で、2040年には約80%減の104名と予測されている。 ・2030年には6歳未満の子どもがいなくなることが予想されている。 ・梅の産地である長野の就業者の半数以上が第一次産業に従事。 ・HbA1cの項目は男性が9.2%上回っており、女性は11.5%下回っている。 ・LDLコレステロールは、女性が10.2%上回っている。 ・女性は、喫煙者、20歳から10kgの体重増加、運動習慣なしの3つの項目において市の平均を大きく下回っている。 ・長野郷明会や上野出船入船会等、様々な地域団体が活動している。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 自然が豊富・風景(梅花が美しい、シダ植物の種類が多い、河川と高い山がある、みかんが色づく頃の美しさ)
- ・ 立地(市街地からさほど遠くなく生活には便利な割に、自然も残っていて暮らしやすい、関西空港や田辺 I Cからのアクセスも良い)
- ・ 交流人口(人口密度が低く、日中歩いていても人と会わない)
- ・ 小学校に対して協力的・世界遺産が二つもある
- ・ 子供に対するまなざしが優しい(両親だけでなく祖父母や地域の方に見守られている)
- ・ 出会ったら挨拶や話が気軽にできる温かい雰囲気がある

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 空き家や耕作放棄地・人口減少(人が少なくなるにつれ、会議や役が多くなる)と高齢化
- ・ 交通(定期バスの便数、免許の返納ができない、自力で通院できない時の対応)
- ・ 防災、減災(土木工事や避難計画などの自然災害への対応)
- ・ 鳥獣被害の現状と自然の調査・中学校廃校舎の利活用
- ・ 長野地域の未来像がどうなるか調べてみたい(数十年後には消滅集落になっているかも)
- ・ 熊野古道の調査、沿線にトイレの数が少ない・長野全体でどのような健康異常が多いのか

課題を解決するために、自分が関われること

- ・ 自然の調査・健康で過ごすこと・長生きすること
- ・ 消滅集落になるまで、防災や地域住民の助け合いで地域に関わっていききたい
- ・ 老人会として、地域を盛り上げていきたい
- ・ 要介護認定者を減らせるような体操指導ができる
- ・ もし I ターン者や U ターン者が来てくれれば、相談や問題点の解決に協力できる

今後 5 年間の目標や課題

- ・ 学社融合を通した児童の育成(郷土愛を育てる、将来地域を支えていく人材に育てる)
- ・ 進む高齢化、人口減の中、地域住民が安心して生活できる公民館活動が大事
- ・ 1 日も早くコロナがなくなることを願う・盛大に芋煮会を開催したい
- ・ 梅生産に力を入れていきたい



シンポジウムの様子



策定会議の様子

上秋津公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	上秋津町内会 13 名
	上秋津公民館運営委員 1 名
	事務局 上秋津公民館 2 名（芝館長、中野主事）
日 時	令和 4 年 10 月 4 日（火） 午後 7 時～午後 8 時
場 所	上秋津公民館 大会議室
会議次第	1 開会挨拶 上秋津公民館 館長 芝光治 2 報告 上秋津公民館 主事 中野旭 ①第 2 次上秋津地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 上秋津町内会 会長 野村悠一郎

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （地域講座の開催）	【対策事業】地域講座 地域歴史や文化を学び地域の良さを再確認し、また、地域の実情を知り課題を把握することで、今後の公民館活動にそれらを活かすため取り組んできた。
アクションプラン 2 （防災学習の推進）	【対策事業】防災学習会 日頃から地域住民の防災に対する意識を高め、避難所運営を担う人材を育成することができた。また、自助、共助、公助の理解を深めることができた。
アクションプラン 3 （農業体験学習の推進）	【対策事業】農業体験学習 次世代を担う子供たちに地場産業である農業の大切さを知ってもらい、郷土愛を育むことを目的に取り組んできた。
課題・問題点	
地域講座は公民館運営委員を対象に数回実施した。今後はさらに対象を広げ実施していきたい。 防災学習会だけでなく防災訓練等も併せて毎年実施する必要がある。 農業体験学習は協力していただいている方の負担にならないよう、必要な場合は内容等を変更し、今後も継続して実施していきたい。	

課題 1	参加者の声	
	・高齢化や転入者の増加等により、地域の歴史や文化について知っている住民が減少している。 ・子供たちに地域の良さを知ってもらいたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	地域講座	地域の課題や歴史、文化を知る
	事業実施後の効果予測	
	・地域の歴史や文化を学ぶことで、地域の良さを知ることができる。 ・地域の良さを再発見し、今後の公民館活動に生かしていく。 ・地域の実情を知り、課題を把握することで、課題解決に向けた取組に役立てていく。	
課題 2	参加者の声	
	・大きな災害に備え、日頃から防災意識を高める必要がある。 ・災害時に各種団体と協力できる体制を作る。 ・自助、共助、公助について正しく学ぶべき。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災学習会	防災意識の向上
	事業実施後の効果予測	
	・毎年防災学習会を開催することで、日頃から防災に対する意識を高める。 ・避難所運営を担う住民を育成することができる。 ・自助、共助、公助の理解を住民間で深めることができる。 ・明治の大水害について学び継承していくことができる。	
課題 3	参加者の声	
	・みかんの種類が多い等、上秋津の農業の特徴や良さを知ってもらいたい。 ・農業に関わる住民が減っている中、農業に対する理解を深めるため、今後も続けていきたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	農業体験学習	子供たちに農業の良さを知ってもらう
	事業実施後の効果予測	
	・地場産業である農業を知る事で、郷土愛を育むことができる。 ・農業に対する住民理解を深めることができる。 ・農業に対する課題を子供たちに知ってもらうことができる。 ・次世代を担う子供たちに農業の大切さを知ってもらうことができる。	

上秋津公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 30 日（水） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	上秋津公民館 大会議室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 17 名
	社会教育委員 2 名（尾崎委員、九鬼委員）
	・事務局 上秋津公民館 2 名（芝館長、中野主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 2 名（北尾課長、林係長）
会議次第	1. 開会挨拶 上秋津公民館 館長 芝光治 2. 報告 上秋津公民館 主事 中野旭 ①上秋津地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 上秋津町内会 会長 野村悠一郎

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は 2005 年時点で 3,283 名であった人口が 2020 年には 3,155 名となり、その後も減少する予想。 ・2020 年時点で高齢化率が約 28%、2040 年には約 33%となっており、65 歳人口は増加すると予測されている。今後、地域の 3 人に 1 人が高齢者になるということになる。 ・市全体の第一次産業の就業者割合は 12.3%、上秋津地域の第一次産業の就業者割合は 28.2%であり、市全体と比較すると第一次産業への就業者割合が 2 倍以上高い。特に農業、林業の従業者数が多い。 ・上秋津地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体を下回っている。 ・男性の喫煙者の割合と飲酒習慣のある方の割合は、市全体の割合を上回っている。しかし、男女とも生活習慣の改善意思がない方の割合は、市全体の割合を下回っているため、自身の健康に関心のある方は多いと考えられる。 ・上秋津地域の多くの団体が所属する秋津野塾を中心に、地域活動が盛んである。

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・地域の活動が活発、地域力が高い ・人のつながり ・梅、みかん（みかんの種類が豊富） ・自然が豊か（奇絶峡・高尾山など） ・子供たちが元気、挨拶がよくできている ・郷土愛の高い人が多い
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> ・地域活動への関心の希薄化 ・住民交流の減少 ・自然災害への備え、防災意識の低下 ・少子高齢化 ・買い物難民の増加
<u>課題を解決するために、自分が関われること</u> ・地域活動への積極的な参加 ・災害時の避難の声かけ ・世代間交流の機会の増加 ・地域行事の復活
<u>今後5年間の目標や課題</u> ・地域コミュニティ力を高める ・共助の意識を高める（防災訓練） ・各種活動への参加 ・自然を守る



策定会議の様子

シンポジウムの様子

秋津川公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	秋津川公民館協力委員 28 名
	事務局 秋津川公民館 2 名（赤松館長、中野主事）
日 時	令和 4 年 7 月 19 日（火） 午後 7 時 30 分～午後 8 時 30 分
場 所	秋津川公民館 会議室
会議次第	1 開会挨拶 秋津川公民館 館長 赤松昌典 2 報告 秋津川公民館 主事 中野旭 ①第 2 次秋津川地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 秋津川公民館 館長 赤松昌典

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （人権学習の推進）	【対策事業】人権講演会 人権尊重の精神を正しく身につけ、人権が尊重された雰囲気や環境を作る。また、人権講演会を開催し、地域住民の人権意識の向上を図った。
アクションプラン 2 （伝統文化の継承）	【対策事業】学校での炭琴や踊り等の授業、婦人会の講習会 貴重な伝統文化を次代に残し、また伝統文化の継承を通して、地域に誇りと愛着を持つことができた。
アクションプラン 3 （地域コミュニティの発展）	【対策事業】町民運動会・ふるさと祭り 住民相互の絆をより深め、地域全体の活性化につながった。また、郷土愛の精神の育成により、若者の定着を促すため事業に取り組んだ。
課題・問題点	
人権学習会や町民運動会など行事の参加者の固定化が課題となっている。 伝統文化の継承については、地域住民が講師となり子供たちに踊りや炭琴などを教え、子供たちに盆踊り大会や、敬老会など様々な行事で披露していただいている。今後、このような機会をさらに増やしていきたい。	

課題 1	参加者の声	
	・地域の産業を利用した炭琴を活用して地域を知ってもらう。 ・秋津川には代々引き継がれてきた伝統文化があるが、それらを継承する人が少なくなっている。	
	対策事業(案)	事業の目的
	炭琴サークル 盆踊り大会	伝統文化の継承
	事業実施後の効果予測	
	・貴重な文化財を次代に残す。 ・地域の伝統文化、地域の産業を知ってもらうことで地域の良さを再確認する。	
課題 2	参加者の声	
	・世代間の交流の機会を増やす。 ・地域の方に直接教えていただくことで、地域の現状等も知ることができる。	
	対策事業(案)	事業の目的
	学校と各種地域団体との交流 (炭琴・おるり音頭の授業等)	地域資源・文化等について学ぶ
	事業実施後の効果予測	
	・地域の方から地域資源や文化等について学ぶことが出来る。 ・地域の方との交流を通し地域を知ること、地域に愛着を持つことができる。	
課題 3	参加者の声	
	・地域住民同士の交流を密にし、地域の活性化につなげる。 ・少子高齢化が進む中、地元に残る若者が少ない。	
	対策事業(案)	事業の目的
	町民運動会 ふるさと祭り	地域コミュニティの発展
	事業実施後の効果予測	
	・住民相互の絆をより深め、地域全体の活性化につなげる。 ・郷土愛の精神の育成により、若者の定着を促す。	

秋津川公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 17 日（木） 午後 7 時～午後 8 時 45 分
場 所	秋津川公民館
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 12 名
	社会教育委員 2 名（加藤委員、近藤委員）
	・事務局 秋津川公民館 2 名（赤松館長、中野主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 2 名（北尾課長、林係長）
会議次第	1. 開会挨拶 秋津川公民館 館長 赤松昌典 2. 報告 秋津川公民館 主事 中野旭 ①秋津川地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 秋津川町内会 会長 北川佳子

地域カルテによる地域分析
・ 2005 年時点で 809 名であった人口が、2020 年には 556 名に減少すると予測されている。しかし、市の統計データでは 2022 年 2 月末時点で、人口は 592 名であり、予測値よりも減少の幅は小さくなっている。 ・ 2020 年時点の高齢化率が約 40%、2040 年の高齢化率は約 60%と予測されている。すなわち、秋津川地域の人口の半数以上が 65 歳以上の高齢者になると予測されている。 ・ 市全体の第一次産業の就業者割合は 12.3%、秋津川地域の第一次産業の就業者割合は 31.8%であり、市全体と比較すると第一次産業への就業者割合が 3 倍ほど高い。特に農業、林業の従業者数が多い。 ・ 秋津川地域の要支援、要介護認定者数の割合は、市全体の割合と概ね同じである。 ・ 男性の喫煙者、20 歳から 10kg 以上の体重増加、飲酒習慣のある方の割合は、市全体の割合を下回っている。 ・ 女性の運動習慣なし、夕食後の間食、飲酒習慣のある方の割合は、市全体の割合を下回っている。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 備長炭、炭琴
- ・ 農業（梅やみかんの生産が盛ん）
- ・ 地域のつながり、近所付き合い
- ・ 豊かな自然

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 少子高齢化
- ・ 地元に残る若者が少ない
- ・ ライフラインの不安（奇絶峡の道路が心配）
- ・ 地域の歴史を知りたい
- ・ 一人で多くの役を掛け持ちしている

課題を解決するために、自分が関われること

- ・ 定住促進（空き家情報をまとめる、Iターンで来た人のお世話をするなど）
- ・ 自分自身の健康維持に努め、地域行事等に積極的に参加する
- ・ 小中学校と地域が連携し、魅力的な学校をつくる
- ・ 誇りを持って生活する
- ・ 避難訓練の実施

今後5年間の目標や課題

- ・ 一人一人が誇りを持って生活する
- ・ 健康維持に努める
- ・ 交流人口の活用
- ・ 地域の各団体を中心にみんなで協力しあっていく
- ・ 行政にも働きかけ学校を維持し、若い人が戻ってきて楽しく生活できる環境を整える
- ・ 秋津川を守るため、一人一人が主人公になって見守り寄り添う気持ちを忘れない



策定会議の様子



シンポジウムの様子

上芳養公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	上芳養公民館運営委員 7 名
	地域学識経験者 1 名
	事務局 上芳養公民館 2 名（井本館長、岡田主事）
日 時	令和 4 年 9 月 12 日（月） 午前 10 時～正午頃
場 所	公民館長が公民館運営委員や地域の学識経験者宅を訪問 （新型コロナウイルス感染拡大予防の為、大人数での会議開催を断念した）
会議次第	1 訪問 上芳養公民館 館長 井本和男 2 報告 上芳養公民館 館長 井本和男 ①第 2 次上芳養地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 等 3 議事 館長と公民館運営委員や学識経験者が各々協議 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有 ③公民館の果たす役割 ④重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 取りまとめ 事務局側で各意見を取りまとめ、承認を得た。

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （子供たちへの体験 教室の開催）	【対策事業】カヌー体験教室、乗馬体験教室、焦がし絵体験教室 学校生活だけでは体験できない機会を提供し、自分の肌で感じた経験を通して、大切なことを学び、心身ともに成長できるように、様々な体験事業を実施した。
アクションプラン 2 （世代を超えた交流 活動の推進）	【対策事業】各スポーツ大会、手づくり作品展、梅林へ歩かんか等 幅広い年齢層の地域住民同士の世代を超えた交流の実現のため、事業内容のブラッシュアップ等に取り組んだ。
アクションプラン 3 （防災・人権に関する 講演会の開催）	【対策事業】防災・人権学習会、各種講演会 発災時の対応や事前の備え、人権について学び、さらに地域住民同士が互いに助け合いのできる関係作りが構築できるように取り組んだ。
課題・問題点	
児童数の減少のために、多くの参加者を確保するのが難しくなっている。 少子高齢化等に伴い、持続可能な運営方法を検討する必要がある。	

課題 1	参加者の声	
	・子供が都会へ出ると帰って来ない。地域を好きになる手掛かりになれば。 ・子供同士の交流の場も大切にする。 ・幅広い年代の方も参加できるようにし、昔遊びの紹介なども良いのでは。	
	対策事業(案)	事業の目的
	カヌー体験教室、乗馬体験教室、 焦がし絵体験教室	日常では体験できない事業を通して、子供たちの豊かな感性、人間性を育む。
	事業実施後の効果予測	
	・心身共に成長する一端を担い、豊かな感性、人間性を育むことにつながる。 ・異学年の子供同士の交流が深まり、より良い交友関係を築くことができる。 ・新しい趣味、特技の発見につながり、さらなる可能性を引き出す。	
課題 2	参加者の声	
	・高齢者の一人暮らしの増加。高齢者も関わりながら活動できる場をつくりたい。 ・健康維持のため、運動する場を。 ・若い方とのコミュニケーション不足、世代間交流が希薄になりつつある。 ・世代別での交流の場も持ちたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	各種体育大会、梅林歩こう会 文化事業、社会見学会等	普段関わりの少ない住民同士の交流を促進し、地域の活性化につなげる。
	事業実施後の効果予測	
	・体を動かしながらの交流により活発化し、健康増進にもつながる。 ・手づくり作品展は、共通の趣味や特技を持った者同士の橋渡し役となって、新たな交友関係を構築し、その後、互いに教え合うことで技術の向上にもつながる。	
課題 3	参加者の声	
	・多様性を受け入れていく。理解していく。 ・土砂災害警戒区域が多い、自主防災組織の再確認をする。 ・救急救命講習など、命や健康に関わる学習会をしたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災学習会・人権学習会 各種学習会・講演会	大規模災害に対し、十分な備えをする。 様々な課題に取り組み、地域全体で意識を高める。
	事業実施後の効果予測	
	・防災について学び・備えることで、自分や家族、近隣住民を守る行動が取れる。 ・多様性を尊重する心を持ち、誰一人取り残さない、持続可能な地域の形成。 ・地域課題に目を背けず取り組むことで、子供たちのためによりよい未来となる。	

上芳養公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和3年11月29日（月） 午後7時～午後9時
場 所	上芳養公民館 2階 集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 32名
	社会教育委員 3名（近藤委員、坂本委員、松場委員）
	・事務局 上芳養公民館 2名（井本館長、日下主事） ・生涯学習課 4名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査）
会議次第	1. 開会挨拶 上芳養公民館 館長 井本和男 2. 報告 上芳養公民館 主事 日下智哉 ①上芳養地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 上芳養町内会 会長 船本幸雄

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で1,811人であった人口が2020年には1,542人となり、その後も減少する予測。 ・2020年時点で高齢化率が約32%、2040年には35%以上の高齢化率となっており、地域の3人に1人以上が高齢者になる予測。 ・0歳から14歳までの子供の数に関しては、2005年時点で260人、2020年には195人となり、2040年予測では121人と、今後も大幅な減少が予測される。 ・上芳養地域の就業者の約53%が第一次産業に携わっている。市全体では、第一次産業の就業者は約12%で、梅やみかんの産地である上芳養地域の就業傾向がうかがえる。 ・上芳養地域は、アパート等がないため、住宅所有形態の持ち家率は96%を上回る。 ・上芳養地域の40～76歳の男性、女性ともに、夕食後の間食については市の平均よりも下回っており、朝食の欠食については0.0%である。 ◆保育、教育施設：日向保育所、上芳養小学校、上芳養中学校 ◆行政等：上芳養公民館・連絡所、上芳養診療所（上芳養農村環境改善センター内）

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 自然が豊か
- ・ 学校給食が自校でできている
- ・ 誰とでもできるあいさつが良い
- ・ 地域としてのつながりが深い、団結力がある、平和である
- ・ 梅の栽培システムが世界農業遺産
- ・ 梅、みかんがおいしい
- ・ 子供たちが素直

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 少子高齢、人口の減少
- ・ 高齢者世帯、1人暮らし世帯増加
- ・ 世代間の交流促進
- ・ 高齢者が多く、今後、運転免許証の返納者が多くなるため、移動手段要検討
- ・ 耕作放棄地、空き家の対応
- ・ 子供が都会へ流出している、農業後継者が少ない

課題を解決するために、自分が関わること

- ・ (農業) 働き方改革
- ・ 講演会や地域行事等の参加
- ・ 道路脇の雑木伐採の協力
- ・ 高齢者が関わりながら活動できる場所を作る、人と人との交流の場づくり
- ・ 移住者等受け入れ対策の充実

今後5年間の目標や課題

- ・ 地域の交流の場を減らさないようにする
- ・ 健康維持のために運動する
- ・ 移住者が入りやすい地域にするためにはどうするすればよいか調べる
- ・ 上芳養の自然、星空観光などをして地域のすばらしさをアピールする
- ・ 多様性を受け入れる、理解する



シンポジウムの様子

中芳養公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	中芳養公民館運営委員 28 名
	事務局 中芳養公民館 2 名（前田館長、岡田主事）
日 時	令和 4 年 11 月 16 日（水） 午後 7 時～午後 8 時
場 所	中芳養公民館 ホール
会議次第	1 開会挨拶 中芳養公民館 館長 前田暁 2 報告 中芳養公民館 主事 岡田由美子 ①第 2 次中芳養地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 中芳養公民館 館長 前田暁

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （地域間・世代間交流 の推進）	【対策事業】夏まつり、合同作品展、春秋グラウンドゴルフ大会 地域や世代を超えた人と人とのつながりや、地域の一体感をより高めるために、各種事業に取り組んだ。
アクションプラン 2 （体験教室機会の提供）	【対策事業】焦がし絵教室、絵便り（絵手紙）教室 地域住民の文化的な趣味や特技の更なる拡大や、それらを通して新たな交流ができ、地域の活性化につながるような事業に取り組んだ。
アクションプラン 3 （防災・人権に関する 学習の推進）	【対策事業】防災・人権学習会 防災について、地域全体で意識を高め、日頃から災害に対しての備えができている地域を目指して取り組んだ。 人権について学ぶことで、様々な人との関わり方を考え、相手の立場に立った行動が出来るように取り組んだ。
課題・問題点	
各種事業における参加者数が減少傾向にあるので、内容を見直す等、住民のニーズを把握し、検討していく必要がある。 防災学習については、「今日や明日」災害が起こったとしても、備えができているように、引き続き意識を高めて取り組んでいく必要がある。	

課題 1	参加者の声	
	・高齢者の一人暮らしの方へ、積極的にお誘いなどの声かけをしていきたい。 ・住民にとって「魅力ある町づくり」を進め、住民同士の交流促進等で人口流出防止。 ・昔よりは、地域がつながる場面が少なくなったと実感している。	
	対策事業(案)	事業の目的
	春・秋グラウンドゴルフ大会 夏祭り、合同作品展	幅広い年齢層の住民間交流を促進し、地域の連帯感をより高める。
	事業実施後の効果予測	
	・世代間の交流はより活発になり、さらに他地区の住民とも交流が深まる。 ・地域住民や、関係する各団体とも事業を通じて協力し合うことで、地域の一体感が強くなり、高齢者の孤立化を防ぐことにもつながる。	
課題 2	参加者の声	
	・日頃からスポーツをして、運動習慣を身に付けたい。 ・趣味を共有する場等を通して、住民同士の付き合いを活発化させたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	絵便り教室、焦がし絵教室、ヨガ教室	体験事業を通して、豊かな感性を育む。 運動習慣を身に付け、健康を維持する。
	事業実施後の効果予測	
	・新たな趣味や特技の発見につながり、文化的な事業に関心を持つことができる。 ・共通の趣味や特技を持った住民同士で新たな交流が生まれ、お互いに切磋琢磨し、技術を高めることができる。 ・ヨガをすることで、健康増進につながり、心も豊かになる。	
課題 3	参加者の声	
	・地震体験車で、地震の揺れを子供たちに体験してもらうような学習会を希望する。 ・地域の現状に沿ったリアルな防災学習の希望、避難所のコロナ対策も学びたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災・人権学習会	災害に備え、自分と周りの人を守る手段を身に付ける。 人権についての意識をより高める。
	事業実施後の効果予測	
	・防災グッズの準備や避難ルートの確認等、事前の備えができる。 ・被災時に自分と家族や地域住民を守る行動ができ、助け合うことができる。 ・様々な人がいること、様々な考えがあることを知り、理解することにつながる。 ・地域の大人が率先して、人権について学び、正しい知識を持つことで、子供たちもおのずと思いやりの心を育んでいくことにつながる。	

中芳養公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年3月11日（金） 午後7時～午後9時
場 所	中芳養公民館 ホール
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 25 名
	社会教育委員 2 名（尾崎委員、坂本委員）
	・事務局 中芳養公民館 2 名（前田館長、日下主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事）
会議次第	1. 開会挨拶 中芳養公民館 館長 前田暁 2. 報告 中芳養公民館 主事 日下智哉 ①中芳養地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 中芳養町内会 会長 田中敦

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で1,790人であったが、2020年には140人増加の1,930人となり、今後も増加すると予測される。 ・世帯数についても、2005年時点で503世帯であったが、2020年には196世帯増加の699世帯となり、今後も増加すると予測される。 ・人口、世帯の増加の背景として、県営・市営住宅の建設や、貝田東区・長屋谷区の宅地造成が要因の一つと考えられる。 ・中芳養地域の就業者の約32%が第一次産業に携わっている。市全体の同数値（約12%）を大幅に上回っている。 ・中芳養地域の40～76歳の男性、女性ともに、BMI指数、糖尿病の検査項目であるHbA1c値、LDLコレステロール値、収縮期血圧値のすべての項目において、正常値内である方の割合が、市全体の平均値よりも高かった。 ◆保育、教育施設：市立中芳養幼稚園、市立中芳養小学校、市立中芳養中学校、市立中芳養学童保育所 ◆行政等：市立中芳養公民館、市立中芳養連絡所、中芳養診療所

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・ 地域の人のあたたかさ ・ 治安がよい ・ 空気がきれい、川がきれい、梅の花がきれい ・ 横断歩道の交通マナー（車はきちんと停車し、渡り終えた子供はお辞儀をする） ・ 子育てがしやすい（学童ができた）
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> ・ 地域のつながりが少なくなっている ・ 自分で車を運転出来なくなった時の移動手段 ・ 小学校の通学路が危険 ・ 子供の遊び場所が少ない ・ 少子高齢化、後継者が少ない
<u>課題を解決するために、自分が関われること</u> ・ 梅、みかん、農業の魅力を子供に教える ・ 魅力のある環境を作る ・ 声かけをして、町内会参加を促す ・ 団らんの場、憩いの場を作る（提供する）、遊び場を確保する
<u>今後5年間の目標や課題</u> ・ 子供が安心して安全に遊べる場所を作る ・ 高齢者への積極的な声かけで孤立を防ぐ ・ 子供に農業の魅力を教え、後継者不足の解消を推進する ・ 地域住民にとって、『魅力ある町づくり』を進める ・ 通学路の整備要請、コミュニティバスの充実の要請



シンポジウムの様子

ひがし公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	ひがし公民館協力委員会 17 名
	事務局 ひがし公民館 2 名（濱野館長、濱地主事）
日 時	令和 4 年 6 月 17 日（金） 午後 7 時 30 分～午後 9 時
場 所	ひがしコミュニティセンター 大集会室
会議次第	1 開会挨拶 ひがし公民館 館長 濱野公二 2 報告 ひがし公民館 主事 濱地美帆 ①第 2 次ひがし地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 ひがし公民館 館長 濱野公二

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （防災にかかる関係 団体と連携）	【対策事業】防災学習会 毎年異なったテーマの学習会を開催することで様々な災害への認知につながった。また、実際に段ボールパーテーションの組み立てや煙体験、救急救命の講習などを行うことで、災害への対応力の向上につながった。
アクションプラン 2 （ひがしふれあい秋祭りのさらなる充 実・発展）	【対策事業】ひがしふれあい秋祭りの開催 平成 30 年度、令和元年度はひがしふれあい秋祭りを開催し、学校と地域がつながり、地域の方に子供たちの様子を伝えられる機会となった。
アクションプラン 3 （子供たちに今しか 体験できないことを 体験させる場の提供）	【対策事業】夏休み子ども体験教室、七夕事業 地域の方を講師として招き、木工・版画等の内容で体験教室を開催した。また、令和 3 年度からは新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた事業として、七夕事業を開催している。
課題・問題点	
事業の参加者数が減少してきている。 ひがしふれあい秋祭りの運営体制を強化する。 夏休み子ども体験教室の講師となる地域人材を確保する。	

課題 1	参加者の声	
	・大規模災害が発生した場合、ひがし公民館区は、他地域からの避難者を受け入れる側になるので、それを踏まえた対策をとる必要がある。 ・災害時に各種団体と連携をとることができる体制を作る。 ・自助・共助・公助について正しく理解すべき。	
	対策事業(案)	事業の目的
	防災講演会・交流会	防災意識の向上
	事業実施後の効果予測	
	・災害に対する認知や対応力を高めることができる。 ・被災時の自助・共助・公助の役割を正しく理解することができる。 ・避難所運営の中核を担う住民を育成することができる。	
課題 2	参加者の声	
	・世代を超えたつながりが薄い。 ・核家族、高齢独居者の増加やコロナ禍の影響もあり、地域活動があまり行えず、住民間の関わりが少なくなっている。	
	対策事業(案)	事業の目的
	各種文化・体育事業	地域間・世代間の交流
	事業実施後の効果予測	
	・地域や世代を超えた交流を図ることができる。 ・住民の連帯感を強化し、地域の活性化につながる。 ・事業を楽しみにしている住民の生きがいがいづくりの場を設けることができる。	
課題 3	参加者の声	
	・世代間の関わりをもっと持ちたい。 ・子供たちに地域の良いところを知ってもらいたい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	語り部活動、夏休み子ども体験教室	地域全体で子供を育てる意識の醸成
	事業実施後の効果予測	
	・地域の歴史や活動について学ぶことで、地域に愛着を持つことができる。 ・地域全体で子供を育てるという意識につながる。 ・住民の活躍の場と生きがいがいづくりになる。	

ひがし公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 1 月 12 日（水） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	ひがし公民館 大集会室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 10 名
	社会教育委員 2 名（坂本委員、松場委員）
	・事務局 ひがし公民館 2 名（濱野館長、濱地主事） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事）
会議次第	1. 開会挨拶 ひがし公民館 館長 濱野公二 2. 報告 ひがし公民館 主事 濱地美帆 ①ひがし地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 ひがし公民館 館長 濱野公二

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は、2010 年時点で 6,257 名であった人口が 2020 年には 6,003 名となり、その後もゆるやかに減少する予想となっている。 ・高齢化率は、2020 年時点で 28.4%、2030 年には地域の約 3 人に 1 人が高齢者になる予測となっている。 ・15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は、2010 年には 4,063 名であったが、2040 年には 2,497 名、約 60%となる予想となっている。 ・0 歳から 14 歳までの子供の数に関しては、2010 年を頂点とし、今後は減少が続くと予想される。 ・ひがし公民館区の就業者は、8 割近くが第三次産業に携わっている。 ・ひがし公民館区の就業者の約半数は、卸売り・小売業又は医療・福祉に従事している。 ・喫煙率が、市の平均より男性では 1.7 ポイント、女性では 1.1 ポイント高い。 ・男性の朝食欠食が、市の平均より 3.6 ポイント高い。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 高台のため、水害や津波の心配が少ない。
- ・ 交通の便が良く、また、店舗・医院・公共施設が近くにあるため生活しやすい。
- ・ 地域の清掃が行き届いている。また、公園が多く、花いっぱい整備されている。
- ・ 町内会組織が充実している。(町内会・老人会・婦人部・自主防災会等)
- ・ 若い人が多く、多様性を認め合える。小さい子供が安心して遊べる。
- ・ 家庭の学習力、教育力がある。子供が挨拶できている。

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 少子高齢化、核家族の増加、高齢独居者について
- ・ 町内会や子ども会への加入率が悪くなってきている。子供の人数が減少している。
- ・ 子ども会→町内会→老人会という形がない。
- ・ 地域の人の世代を超えたつながりが薄い。
- ・ コロナにより活動ができていない。
- ・ 交通量が多く危険なので、横断歩道の整備、歩車分離・交通事情（危険な道路）について
- ・ 町内全体で地域的にアップダウンが多い。

課題を解決するために、自分が関わること

- ・ 隣近所との挨拶から始める声かけ運動
- ・ 組織行事に積極的に参加する。
- ・ 子ども会に入会してもらえるように、子供から声を掛けてもらう。
- ・ 各組織（子ども会・町内会・敬老会）などとの相互の関わり
- ・ 地域の人々のつながりができるような企画が必要

今後5年間の目標や課題

- ・ 町内会と子ども会共に入会の声かけ
- ・ 子供を守る組織作り
- ・ 防災行事の計画と実施
- ・ 学校行事、公民館行事に積極的に参加する



シンポジウムの様子



夏休み子ども体験教室の様子

龍神公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	龍神公民館運営委員会 19 名
	事務局 龍神公民館 2 名（濱窄館長、吉本主事）
日 時	令和 4 年 10 月 28 日（金） 午後 7 時～午後 8 時
場 所	龍神市民センター 大会議室
会議次第	1 開会挨拶 龍神公民館 館長 濱窄忠人 2 報告 龍神公民館 主事 吉本圭佑 ①第 2 次龍神地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和 3 年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 第 2 次龍神地域生涯学習計画（後期計画）（案）について（事務局提案） 4 閉会

前期計画の振り返り	
アクションプラン 1 （防災・人権学習の推進）	【対策事業】防災・人権学習会 防災・人権学習会を通じて、住民の防災意識及び人権意識の向上につなげるため、地域と連携した学習会を実施してきた。
アクションプラン 2 （人材育成の推進）	【対策事業】教育講演会 学校と地域が連携・協力し、子供を育てる環境を整えていくために、教育講演会を通じて人材育成を推進した。
アクションプラン 3 （交流の促進）	【対策事業】グラウンドゴルフ大会、男女混合ソフトボール大会 公民館事業を通じて、地域間や世代を超えた交流を行い、地域の活性化につながる取組を行ってきた。
課題・問題点	
地域シンポジウムでは、分館単位での意見が出て良かったが、龍神全体の良さを話す機会はなかった。龍神全体の良さを知る・話す機会があると良い。 防災と人権は分けた方が良い。また、災害を防ぐ視点の環境学習会があっても良いのではないか。	

課題 1	参加者の声	
	・防災と人権は分けて記載する方が分かりやすいのでは？ ・「災害を防ぐ」視点での環境学習を防災や人権の学習に盛り込むことが必要。	
	対策事業(案)	事業の目的
	人権学習会、防災学習会	人権意識、防災意識の向上
	事業実施後の効果予測	
	・災害に係る環境について学習し、多様な知識を獲得することで、災害をいらずらに恐れることを防ぐことができる。 ・被災時の自助・共助・公助の役割について正しく理解することができる。 ・人権について正しく理解することができる。	
課題 2	参加者の声	
	・株式会社龍神村の他にも地域活性化を行っている人々がいるので、「など」を追加した方がいい。 ・U・Iターンの5年・10年のデータ（実績数等）を現状に反映した方が良い。	
	対策事業(案)	事業の目的
	地域づくりに対する講演会及び学習会 学社融合の推進	若年層を中心とした人材育成
	事業実施後の効果予測	
	・これからの地域を担う人材を育成することができる。 ・児童生徒と地域住民の交流を通して、相互に学習することができる。	
課題 3	参加者の声	
	・どれだけ若者が地域に残っているかを知りたい。高卒就職が少なくなり、進学割合が大きくなっている。また、地域シンポジウムは29名が参加して活気があったが、分館単位での意見になった。龍神全体の良さを知る・話す機会があると良い。	
	対策事業(案)	事業の目的
	交流の場の設置	交流の場の設置
	事業実施後の効果予測	
	・地域間や幅広い年齢層での交流を促進することにより、つながりの強い地域をつくることができる。 ・交流を促進することにより、さまざまな事業で協力を得ることができるなど、事業の充実が期待できる。	

龍神公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年1月11日（火） 午後7時～午後9時
場 所	龍神市民センター 大ホール
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 29 名
	社会教育委員 2 名（加藤委員、近藤委員）
	・事務局 龍神公民館 5 名（濱窄館長、古久保主任、吉本主査、町田氏、安達氏） ・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 2 名（北尾課長、林係長）
会議次第	1. 開会挨拶 龍神公民館 館長 濱窄忠人 2. 報告 龍神公民館 主査 吉本圭佑 ①龍神地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 龍神公民館 代表分館長 奥野佳世

地域カルテによる地域分析
・ 龍神地域は7つの分館毎に地域カルテを作成しており、地域シンポジウムにおいては、時間の都合上、7つの分館に共通する事項について報告し、分館毎の地域カルテによる地域分析を地域シンポジウムにおいては実施しなかった。 ・ 人口の推移は2005年時点から2020年まで減少しており、今後も減少する予想。龍神地域は特に人口の減少が顕著となっている。 ・ 2020年の高齢化率が40%前後となっていることから、龍神地域の5人に2人が高齢者となる。また、0歳から14歳までの子供の数について、減少が続いている。人口減少については、普段の生活の中で感じていることと思うが、具体的な数字に表すことで、課題を明確にすることができる。地域カルテは、地域の状況を読み取るツールになる。

グループワーク

地域の自慢できること

- ・ 龍神温泉という観光資源がある
- ・ 自然のよさ。護摩山、日高川、キャンプ場など。
- ・ 住民が穏やかで人がいい。地域のつながり、一致団結助け合いができる。また、移住者が輝いている。
- ・ 子供たちをよく応援してくれる。大切にしてくれる。学校に協力的。
- ・ 歴史や文化財（神社、寺、B29、安倍晴明、田中光顕、刀鍛冶など）がある。

地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報

- ・ 過疎が進んでいて空き家の数が多い。また高齢者の一人暮らしが多い。
- ・ 子育て世代が少なく、子供が減少している。
- ・ 高齢者の免許所持率及び返納率を知りたい。また、返納後の移動手段が課題。
- ・ バイク事故が多い。
- ・ 休耕地が多い。農業体験したい方へ田畑を提供してくれる人を知りたい。

課題を解決するために、自分が関われること

- ・ 地域で高齢者や一人暮らしの見守りと見回り、声かけをする。
- ・ 幅広い年代の交流の場をつくる。
- ・ 若者や移住者を受け入れる。

今後5年間の目標や課題

- ・ 地域内の交流の場をつくる。
- ・ 空き家や休耕地の活用。
- ・ 若者や移住者を受け入れる。



シンポジウムの様子



グループワークの様子

中辺路公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	第2次中辺路地域生涯学習計画策定委員 10名
	事務局 中辺路公民館 2名（村本館長、岡崎主事）
日時	令和4年11月16日（水） 午後7時～午後8時
場所	中辺路公民館 第1会議室
会議次第	1 開会挨拶 中辺路公民館 館長 村本真人 2 報告 中辺路公民館 主事 岡崎誠 ①第2次中辺路地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和3年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （文化の保全と伝統 芸能の保存継承事業）	【対策事業】 三番叟、野中の獅子舞 子供たちが、地域の方々から学ぶ中で関心・意欲が高まり、この伝統文化を大切に継承していこうという意識を醸成することができるように取組を行ってきた。
アクションプラン2 （自然観察会の開催）	【対策事業】 中辺路子ども環境探偵団 環境保護活動の大切さや、地域の歴史・文化に触れることで、郷土に誇りを持てる心を少しでも育むことにつながるよう取り組んできた。
アクションプラン3 （人権学習会の開催）	【対策事業】 人権学習会 住民一人ひとりの人権意識の高揚につなげるため、学習会を実施してきた。
課題・問題点	
人権学習会においては、参加者の減少、固定化が続いていることが今後の課題である。	

課題 1	参加者の声	
	・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民が参加できる行事が少なくなっている。 ・様々な行事を開催し、地域住民の交流を強く推し進めてほしい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	スポーツ・文化交流事業の開催	住民相互の交流促進
	事業実施後の効果予測	
	・地域間、世代間など、住民相互の交流を図ることができる。 ・人と人とのつながりが深まり、連帯感の強化や地域の活性化につながる。	
課題 2	参加者の声	
	・各地域の文化に詳しい人材を中辺路全体で育て大切にしていけるような取組や、大人向けに地域を学ぶ機会を設けることはできないか。 ・中辺路子ども環境探偵団の参加対象を中学生にまで広げることで、小中学生間の交流が増え、互いに学び合い・教え合う機会が生まれるのではないか。	
	対策事業(案)	事業の目的
	中辺路子ども環境探偵団	郷土の素晴らしい自然に親しみ、自然を愛し、自然を考える活動を展開することで環境を守る心を育み、環境保護活動の大切さや地域の文化を学ぶ。
	事業実施後の効果予測	
	・郷土の素晴らしい自然、歴史、文化などに親しむことができる。 ・環境を守る心を育み、環境保護活動の大切さを学ぶことができる。 ・地域を学ぶ取組により、その魅力を再認識し、地域を誇りに思える心の醸成につながる。	
課題 3	参加者の声	
	・多くの人権課題がある中、特に今日的な課題について学習していけばどうか。	
	対策事業(案)	事業の目的
	人権を考える学習会	人権に関する学習機会を提供し、人権意識の向上につなげる。
	事業実施後の効果予測	
	・様々なテーマの人権学習により、広範囲に学ぶことができる。 ・人権について考えることができ、人権意識の向上につながる。 ・人権学習を深めることで、思いやりの心を育むことができる	

中辺路公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和 4 年 3 月 14 日（月） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	中辺路公民館 大会議室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 13 名
	社会教育委員 2 名（近藤委員、柳川委員）
	・事務局 中辺路公民館 2 名（村本館長、岡崎主事）
	・生涯学習課 5 名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 2 名（北尾課長、土屋主事）
会議次第	1. 開会挨拶 中辺路公民館 館長 村本真人 2. 報告 中辺路公民館 主事 岡崎誠 ①中辺路地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後 5 年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 中辺路公民館 近野分館長 森純一

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は 2005 年時点で 3,450 人であった人口が 2020 年には 2,390 人となり、その後も減少する予想。 ・高齢化率が 2005 年に 37.4%であったのが、その後、5 年ごとの数値では 2025 年を除き上昇を続けており、2040 年には 57%とおおよそ 6 割が高齢者という予測になっている。 ・中辺路町内小・中学校の児童・生徒数の推移は、中辺路小、中辺路中は減少傾向にあり、近野小・近野中は増減が小さくほぼ横ばいである。 ・要支援・要介護認定者数の推移は、要介護はそれぞれの区分で増減があり一定ではないが、要支援 1、2 においては年々増加しており、日常生活は自分で行えるものの、多少の支援が必要になってくる方が少しずつ増えてきている。 ・男性の喫煙者や運動習慣なしの割合は、市の平均をやや下回っているが、女性は逆に上回っている。 ・夕食後の間食や飲酒は、男女ともに市の平均よりも高いものとなっている。

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・豊かな自然、ダムのない富田川、世界遺産熊野古道 ・伝統文化（野中の獅子舞、子ども三番叟など） ・子供の学びの充実（少人数で教育充実） ・多様な人材（移住者、Iターン者など） ・人のつながりの強さ、住民間の協力体制 ・公共インフラが整っている（一つの町の中に、学校、病院、郵便局などがある）
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> ・若者の仕事がない ・高齢化が進んでいる・世代交代ができていない ・高齢化によりリーダーシップを執れる人がなく、基本的なマンパワーが弱い ・交通の便が悪い・買い物が困難 ・I、Uターン者がどれくらいいるか ・失われた風習、伝統 ・なぜ熊野古道を歩くのか
<u>課題を解決するために、自分が関わること</u> ・高齢独居老人への対応 ・耕作放棄地の転用 ・住民バスの充実 ・I、Uターン者の定住
<u>今後5年間の目標や課題</u> ・地域活動への参加促進 ・熊野古道に海外観光客が来る町として、観光業の強みを生かす ・いつまでも住み続けたい、豊かな町中辺路町



策定会議の様子



シンポジウムの様子

大塔公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	大塔地域生涯学習計画策定委員会 第1回 10名 第2回 9名
	事務局 大塔公民館 2名（高根館長、那須主事）
日 時	第1回 令和4年 8月 25日（木） 午後7時～午後8時 30分 第2回 令和4年 10月 3日（月） 午後7時～午後7時 30分
場 所	大塔総合文化会館 大会議室
会議次第	1 開会挨拶 大塔公民館 館長 高根昌史 2 議事 大塔公民館 主事 那須大生 第1回 ①第2次大塔地域生涯学習計画（後期計画）の概要について（説明） ②第2次大塔地域生涯学習計画までの経過報告（説明） ③令和3年度に開催した大塔地域シンポジウムの報告 ④後期計画（案）についての説明・協議 第2回 ①後期計画（修正案）の説明 ②重点アクションプラン（案）の説明 ③協議後、承認を得る 3 閉会挨拶 大塔公民館 館長 高根昌史

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （コミュニティの活性化）	【対策事業】囲碁ボール大会、グラウンドゴルフ大会 過疎が進み、地域住民同士の交流が減少してきていることから、地域全体で、子供から老人まで交流できる取組を行ってきた。
アクションプラン2 （安心・安全住みよいまちづくり）	【対策事業】小学生を対象とした防災学習、健康体操教室 子供から老人まで全ての人が安心、安全に生活できる町になるために、学校や地域住民、関係機関と連携し、学習会を実施。また、公民館独自で、健康な体づくりができる教室を開講した。
アクションプラン3 （共育、学社融合活動の推進）	【対策事業】放課後子ども教室、学校支援活動の推進 次世代の人材育成や、地域全体で子供たちを育てあえる地域を作るために、学社融合推進協議会を通じて、地域住民と子供たちの交流促進や、支援活動を行ってきた。
課題・問題点	
山間部の住民や移動手段のない住民が公民館活動に参加することができない。 次世代の人材育成が急務。	

課題 1	参加者の声	
	・移動手段がなく、公民館活動に参加できない。 ・山間部の住民は、近場での公民館事業の開催が少ないため、公民館といわれてもあまりピンとこない。	
	対策事業(案)	事業の目的
	出張教室や地域単位での事業の開催	住民がより気軽に公民館活動に参加できるようにする。
	事業実施後の効果予測	
	・移動手段のない住民が、公民館活動に参加することが可能になる。 ・住民にとって、公民館がより身近なものになる。 ・地域の活性化につなげることができる。	
課題 2	参加者の声	
	・大塔を担う次世代のリーダーの育成が必要。 ・地域全体で地域課題を共有できるようなきっかけが欲しい。	
	対策事業(案)	事業の目的
	地域についての講演会及び学習会 学社融合活動の推進	次世代の人材育成
	事業実施後の効果予測	
	・地域を担う次世代のリーダーを育成することができる。 ・地域の現状や未来について次世代に伝えられる。 ・住民の活躍の場が広がる。	
課題 3	参加者の声	
	・地域の魅力が伝わるような事業を公民館独自で開催してみてはどうか。 ・SDGsにつながる活動はできないか。	
	対策事業(案)	事業の目的
	自然とのふれあい体験・講座	自然の良さや地域の魅力を再発見する。 持続可能な自然保護活動を推進する。
	事業実施後の効果予測	
	・地域の観光資源についてのイベントを開催し、自然の良さや地域の魅力を改めて感じ、持続可能な保護活動（SDGs）につなげることができる。	

大塔公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年3月24日（木） 午後7時～午後9時
場 所	大塔総合文化会館 大会議室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 26名
	社会教育委員 3名（稲垣委員、近藤委員、柳川委員）
	・事務局 大塔公民館 2名（高根館長、那須主事） ・生涯学習課 5名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事）
会議次第	1. 開会挨拶 大塔公民館 館長 高根昌史 2. 報告 大塔公民館 主事 那須大生 ①大塔地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 大塔公民館 館長 高根昌史

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で3,259名であったが2020年には2,458名となり、約25%減少した。 ・高齢者数は2005年時点で1,016名であったが、2020年には876名と約14%減少しており、人口自体は減っているものの総人口と比較すると減少率が少ないことから、高齢化が進んでいることがわかる。 ・6歳未満の同居世帯は2005年時点では125世帯であったが2020年には46世帯と急激に減少しており、2040年には0世帯と予測されていることから、高齢化とともに少子化も進んでいることがわかる。 ・運動習慣なしの割合は男性が45%、女子が40%となっており、男女共に田辺市の平均より約30%上回っている。 ・女性の飲酒習慣の割合は59%と田辺市の平均より約11%上回っている。 ・その他の項目は概ね田辺市の平均と同じである。

グループワーク
<u>地域の自慢できること</u> ・豊かな自然、天然記念物がある。 ・保育園、小中学校が一か所に集まっており、子育てがしやすい。 ・近所付き合いができる。人情がある。 ・伝統文化が素晴らしい。 ・区長を中心に住民が団結している。協力的。 ・上野の獅子舞、大塔太鼓、地球元気村等の伝統行事がある。
<u>地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報</u> ・伝統文化の衰退。 ・事業に参加する際の移動手段。 ・買い物難民がいる。 ・子供たちとのふれあいが少ない。 ・人材確保が急務。 ・空き家がどこにどれくらいあるか。
<u>課題を解決するために、自分が関われること</u> ・伝統文化の記録、保存をする。 ・頼まれたらついでに買い物をする。 ・小中学校からの校内だより等を日頃からよく見て、参加できる行事は参加していきたい。 ・ふれあいスクールのボランティアなど、子供たちとのふれあいの場に参加する。 ・大塔のホームページを作る。
<u>今後5年間の目標や課題</u> 〈地域の自慢〉 ・豊かな自然・子育てがしやすい・近所付き合いが良い 〈地域の課題・知りたい・調べたい〉 ・伝統文化の衰退・買い物難民がいる・子供たちとのふれあいが少ない 〈課題を解決するために〉 ・伝統文化の継承、記録、保存・地域全体で買い物難民への支援・各種活動に参加



策定会議の様子



シンポジウムの様子

本宮公民館地域生涯学習計画策定会議報告書

会議概要	
組織体制	本宮地域生涯学習推進計画策定委員会 10名
	事務局 本宮公民館 3名（小守館長、畠中主任、垣内主事）
日時	令和4年11月16日（水） 午後7時～午後7時50分
場所	本宮行政局 大会議室
会議次第	1 開会挨拶 本宮公民館 館長 小守充 2 報告 本宮公民館 主任 畠中由香 ①第2次本宮地域生涯学習計画（前期計画）に基づく取組の成果と課題 ②令和3年度に開催した地域シンポジウムの開催報告 3 議事 ①地域の現状・課題の分析 ②目指すべき地域像の共有、公民館の果たす役割 ③重点アクションプラン、対策事業及びその目的、事業実施後の効果予測 4 閉会挨拶 本宮地域学社融合推進協議会 会長 弓場博視

前期計画の振り返り	
アクションプラン1 （人権学習会の開催）	【対策事業】 小中学生人権お話し会・人権の集い 住民間の気配り・思いやりの大切さなど、人権意識の向上に向けた取組が必要という意見に基づき、人権週間に人権に関わる講演会・映画上映を開催してきた。
アクションプラン2 （伝統芸能[無形文化財]の保存継承活動）	【対策事業】 熊野本宮伝統芸能教室・熊野本宮伝統芸能子ども教室 無形文化財である「平治川の長刀踊り等がそのうち失われてしまうのではないか」との意見を受け、公民館サークルや小学校の授業でも継承活動に取り組んでいる。
アクションプラン3 （自然観察会の開催）	【対策事業】 川の自然観察会・水生生物観察会 山と川の自然に恵まれた環境の中で、外で遊ぶことが少なく、生き物の命や植物の大切さを理解し、併せて自然保護活動を推進する必要があるとの意見を受け、一般公募での「川の自然観察会」をはじめ、学校では「水生生物観察会」を開催。
課題・問題点	
伝統芸能の踊りを披露する場が少ないのではないかという意見があった。	

課題 1	参加者の声	
	・人間関係が希薄になってきていると感じる。 ・I ターンの方たちへの配慮、地域住民への配慮が必要。 ・高齢者の一人暮らしが多い。	
	対策事業(案)	事業の目的
	人権学習会	人権意識の向上に向けた取組の実施
	事業実施後の効果予測	
	・小中学生の人権作文発表やその他講演会を開催することで幅広い年齢層の方々に、相手に対する思いやりの心を育む。	
課題 2	参加者の声	
	・歴史と伝統がある。 ・伝統芸能を披露する場を増やす。	
	対策事業(案)	事業の目的
	伝統芸能保存・継承活動	本宮町に伝わる伝統芸能の保存と継承
	事業実施後の効果予測	
	・一部で継承が危ぶまれている伝統芸能（無形文化財）について、教室等の生徒を広く募集し継承に努めることで、文化財の継承とあわせて地域での交流が生まれる。 ・子供たちに習得させることで将来的に継承できる人材が確保できる。	
課題 3	参加者の声	
	・学校行事への参加。 ・歴史、伝統、自然の豊かさを知り地域の事を学ぶ。 ・地域の人たちと交流する。	
	対策事業(案)	事業の目的
	学社融合活動の推進	世代間交流や地域を知る機会が生まれる
	事業実施後の効果予測	
	・地域住民にとっては、子供たちとの交流により、地域全体で子供たちの成長を見守るという意識が高くなる。 ・子供たちにとっては、自分たちの育った地域のことを学び、知り、愛着を持つことにつながる。	

本宮公民館地域シンポジウム報告書

地域シンポジウム概要	
日 時	令和4年1月18日（火） 午後6時30分～8時20分
場 所	本宮行政局 大会議室
参加者	講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘 准教授
	地域住民 18名
	社会教育委員 2名（九鬼委員、柳川委員）
	・事務局 本宮公民館 3名（浦野館長、小守主任、垣内主事） ・生涯学習課 5名（狼谷課長、那須係長、尾崎係長、遠山主査、澤本主事） ・自治振興課 2名（北尾課長、林係長）
会議次第	1. 開会挨拶 本宮公民館 館長 浦野泰之 2. 報告 本宮公民館 主任 小守充 ①本宮地域生涯学習計画に基づく取組の成果と課題 ②地域カルテによる地域分析 3. ミニ講演 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus 西川一弘准教授 「次の田辺を共に創る！～自治を支える学習～」 4. グループワーク テーマ：「今後5年間（後期計画）の目標や課題を話し合う」 個人ワーク→ グループ討議→ グループまとめ→ 全体共有 5. 閉会挨拶 本宮公民館 三里分館長 鳥居清人

地域カルテによる地域分析
・人口の推移は2005年時点で3,570名であった人口が2020年には2,428名となり、その後の予測値では2040年には1,350名と大幅な減少が予測される。 ・2020年時点で高齢化率が48.7%、2030年の予測値では50%を超え次第に増加していくことが予測されている。 ・産業別就業者の割合は、半数以上が第三次産業のサービス業に携わっている。 ・BMIは男性17.6%、女性は15.8%と市の平均値を下回っており、日頃から運動習慣があると推測することが出来る。 ・特定健康検査の問診結果を市と比較してみると、生活習慣の改善意思なしの男性が44.7%、女性が45.0%と高くなっており、健康に対する意識が若干低いように思われる。

グループワーク
地域の自慢できること ・ 歴史があり、自然があり、熊野古道がある・地域住民が優しくあたたかい ・ 本宮大社や熊野古道など歴史と伝統がある・観光客が多い・住民が仲良く団結力がある ・ 時間がゆったりと流れる
地域の課題や知りたい・調べてみたい地域情報 ・ 人口減、少子高齢化・空き家情報、空き地情報・有害鳥獣（猿鹿猪） ・ 交通手段と利用・元々の地域住民への配慮、移住者への配慮 ・ 本宮町出身の教師、市役所職員が少ない・若者の独身者が多い ・ 人間関係、つながり、近所付き合いが薄くなってきた ・ 本宮の検索数・他府県からの移住者数・運転免許の返納率・買い物事情 ・ 医療機関が少ない・仕事がない
課題を解決するために、自分が関われること ・ 公民館組織の見直し ・ 各種活動を支援したい（新しいイベント 学校行事）・空き家探し、空き家の利用 ・ 狩猟免許を取る ・ 仕事がない（木材を利用した産業開発） ・ 集落内の交流を促す・健康増進のサークルを作る
今後5年間の目標や課題 〈地域の自慢〉 ・ 自然や観光資源、文化歴史、人のつながりやあたたかさを活用して楽しいイベントなどを行い人が集まる取組を行う 〈地域の課題・知りたい・調べたい〉 ・ 定住人口を増やす・空き家リストの作成 〈課題を解決するために〉 ・ 各種活動に参加・住民、産業、行政のバックアップ ・ 移住者を増やす、移住者支援 ・ 四村川活性化委員会の充実



策定会議の様子



シンポジウムの様子

第2次田辺市地域生涯学習計画（後期）

発行・編集：田辺市教育委員会 生涯学習課

所在地：〒646-0028

和歌山県田辺市高雄一丁目 23-1

田辺市民総合センター内

TEL 0739-26-4925

発行年月：令和5年3月